



14 x 10 Bus-Powered Thunderbolt 3 Audio Interface

# ZEN Q

SYNERGY CORE



# CONTENTS

ご使用いただく前に.....	4
オンラインアクティベーションの手順.....	6
セットアップ .....	8
Windows 10 での設定.....	8
macOS での設定 (10.1、もしくはそれ以降).....	9
THUNDERBOLT™ 3 の機能性.....	12
デイジーチェーン .....	12
バスパワー.....	12
ANTELOPE LAUNCHER.....	13
'Devices' タブ .....	13
'Plug-ins' タブ .....	16
'System' タブ.....	17
ハードウェアパネルの説明.....	20
トップパネル.....	20
コントロールメニュー.....	21
システムメニュー.....	22
フロントパネル.....	23
リアパネル.....	24
コントロールパネルアプリケーション.....	28
クイックスタート.....	28
マウスとキーボードのショートカット.....	31
メインビュー.....	31
セッティングウィンドウ.....	32
モニター&ヘッドフォンビュー.....	41
Synergy Core FX ラック .....	43
デジタルアウトビュー.....	46
DAW I/O ビュー.....	47
AuraVerb.....	49
EDGE & VERGE MIC エミュレーション.....	54
Getting Started.....	54



Edge Solo .....	56
Edge Duo .....	57
Verge.....	59
カスタマーサポート情報.....	61
ANTELOPE 製品が動作しない .....	63
LIMITED WARRANTY POLICY.....	65
安全にお使いいただくために.....	72
技術詳細.....	73



## お使いいただく前に

このたびは Antelope 製品をご購入いただき誠にありがとうございます。  
お使いいただく前にぜひご一読ください



Zen Q Synergy Core は次世代のテクノロジーと伝統的なコンソールグレードの回路を融合させています。Antelop Audio の特徴的なサウンドクオリティは、プロ仕様のAD/DA変換、ディスクリットウルトラリアンプ、64-bit AFC™ クロッキングから生まれます。Orion Studio や Galaxy 64 Synergy Core のようなハイエンドインターフェイスを駆動するのと同じコアテクノロジーを搭載しているので、ホームエンジニアやアーティストは、デスクから立ち上がることなく、自分のプロダクションを新たなレベルに引き上げることができます。

このインターフェイスには、37種類のアナログモデリングエフェクトが搭載されており、希少なアナログ機器を備えたスタジオを再現することができます。Synergy Core プラットフォームは、象徴的なイコライザー、ダイナミックプロセッサ、ギターアンプ、リバーブなどを自在にコントロールできます。さらに、Antelope Audio のソフトウェアストアでは、50以上のオプションの拡張機能が利用できます。

PC/Mac の Control Panel アプリケーションは、Zen Q Synergy Core とお好みのDAW との間の究極の「媒介者」です。ユニットの能力を完全に活用するためには、ゲイン調整、信号ルーティング、エフェクト処理、基本的なミキシングなどのタスクを処理することが求められ、



また、直感的なシングルウィンドウ環境でメーター機能を利用することができます。できあがったオーディオは DAW に送られ、お好みのフォーマットでレコーディングすることができます。

そのため、作業を始める前に '[Control Panel Application](#)' chapter の章をよく理解しておくことをお勧めします。また、「クイックスタート」の例もいくつか用意されています。このようにして、Antelope Audio 製品を初めて使用するユーザーが直面する一般的な問題を克服することができます。

万が一問題が発生した場合は、電話、ライブチャット、チケットシステムで [Customer Support](#) にご連絡ください。また、[Antelope Audio on YouTube](#) にて Antelope Audio のビデオチュートリアルをご覧になったり、Facebook の [Antelope Audio Users](#) に参加してアドバイスを求めたりすることもできます。[Knowledge Base](#) も貴重な情報源です。

それでは Zen Q Synergy Core をお楽しみください。

Best wishes,  
**Team Antelope**



## オンラインアクティベーションの手順

機器のアクティベーションを行うには、お使いのコンピュータがインターネットに接続されている必要がありますのでご注意ください。Antelope Audio のデバイスをオフラインでアクティベートすることはできません。

Zen Q Synergy Core を使用するにはオンラインでアクティベートする必要があります。この章では必要な手順を説明します。

1. Thunderbolt™ 3 ケーブルを使って Zen Q Synergy Core を Windows または macOS コンピュータに接続する。

### 重要：

Zen Q Synergy Core はコンピュータの Thunderbolt™ ポートからバスパワーで供給されるため、外部電源は必要ありません。

外部アダプタを介した従来の Thunderbolt™ 2 および 1 の接続は、電力供給が不十分なため互換性がありませんのでご注意ください。

Zen Q Synergy Core は Thunderbolt™ 3 のみに対応しています。

### Read how to identify the ports on your Mac

2. インターネットブラウザを開き <https://en.antelopeaudio.com/login/> にアクセスする。
3. 電子メールとパスワードで Antelope Audio のユーザーエリアにログインしてください。アカウントをお持ちでない方は <https://en.antelopeaudio.com/sign-up/> にて作成してください。
4. 'Activate New Device' をクリックする。

## Activation

Step by step activation of your new device.

ACTIVATE NEW DEVICE

5. デバイスリストから 'Zen Q Synergy Core' をクリックする。
6. Windows または macOS 用の Antelope Launcher アプリケーションをダウンロードしてインストールします。
7. Antelope Launcher アプリケーションを開き「Login」ボタンをクリックします。



Antelope Audio のユーザーエリアにログインする際に使用したEメールとパスワードを入力し「Login」をクリックします。



Please Login

Email

Password

Login

If you don't have an account visit our website to [Register](#).

Forgot password? [Reset here](#)

#### 8. 'Activate device'をクリックする

注：「Devices」タブに Zen Q Synergy Core が表示されない場合は「Not seeing your device?」をクリックし、画面の指示に従ってください。

9. Antelope Management Wizard のウィンドウで「Activate device or assign features」を選択し「Continue」をクリックします。

10. 次のウィンドウで「Register device」にチェックマークを入れ「Continue」をクリックします。

11. 起動に成功すると、最後のウィンドウに「Congratulations! You have successfully activated your device」と表示されます。「Done」をクリックするとアクティベーションが終了します。

以下の「セットアップ」の章に進み、Zen Q Synergy Core を Windows または macOS コンピュータで使用するための設定を行ってください。

注：Zen Q Synergy Core は Antelope Audio のユーザーエリアの「My Hardware」ページにシリアル番号とアクティベーションの日付とともに表示されます。



## セットアップ

オンラインアクティベーションが完了したら、Zen Q Synergy Core を利用可能な最新のソフトウェアおよびファームウェアバージョンにアップデートしてください。これを行うには Antelope Launcher を開き、「Bundle Version」ドロップダウンメニューの下にある「Update」ボタンをクリックするだけです。

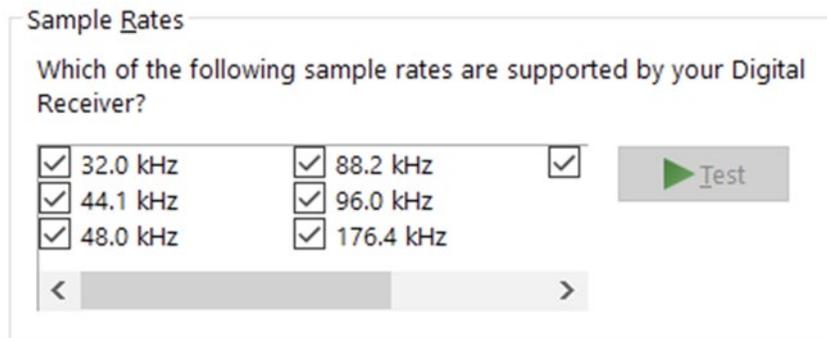


アップデートが完了したら、お使いのOSに応じた手順で作業を進めてください。

## Windows 10 での設定

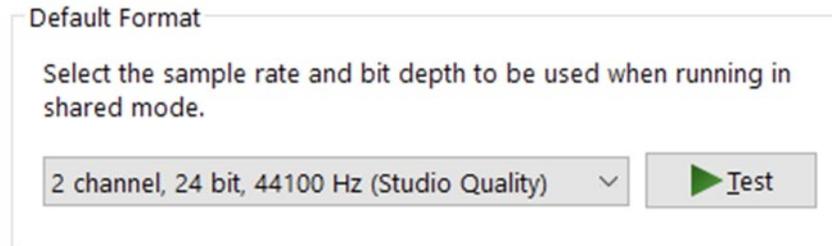
Windows 10 では Zen Q Synergy Core を稼働させるためにいくつかの調整が必要です。

1. コントロールパネルから「Sounds」オプションウィンドウを開くか、システムトレイのスピーカーアイコンを右クリックして「Open Sound settings」を選択します。
2. 「Output」と「Input」でZen Q Synergy Coreが選択されていることを確認します。
  - 「Output」ではインターフェイスが「ZenQ SC TB Audio Driver Playback 1/2」と表示されていることを確認します。
  - 「Input」では「ZenQ SC TB Audio Driver Recording 1/2」が選択されていること。
3. 「Output」の下にある「Device Properties」をクリックします。次に「Additional Device Properties」をクリックします。
4. 「Supported Formats」タブに入り、使用可能なすべてのサンプルレートにチェックを入れます。





5. 「Enhancements」タブに入りすべてのエンハンスメントを無効にします。
6. 「Advanced」タブを開き、ドロップダウンメニューから「2 channel, 24-bit」モードを選択します。「OK」をクリックしてウィンドウを閉じます。



7. 「Sound settings」に戻り「Input」の下にある「Device Properties」をクリックします。次に「Additional Device Properties」をクリックします。「Enhancements」タブに入り、すべてのエンハンスメントを無効にします。「OK」をクリックしてウィンドウを閉じます。

## Tips

- DAW と OS のオーディオ再生を同時に行うと途切れたり失敗したりする場合は、デバイスのサンプルレートが DAW のサンプルレートと一致しているかどうかを確認してください。
- 複数の再生アプリケーションを同時に実行する場合には「Advanced」タブの「Exclusive mode」を無効にすると効果的な場合があります。
- 32kHzのサンプルレートを無効にすることは必須ではありませんが、一般的には役立つかもしれません。

## 参考文献

- Antelope Audio Knowledge Base - [Windows 10 Optimization](#)

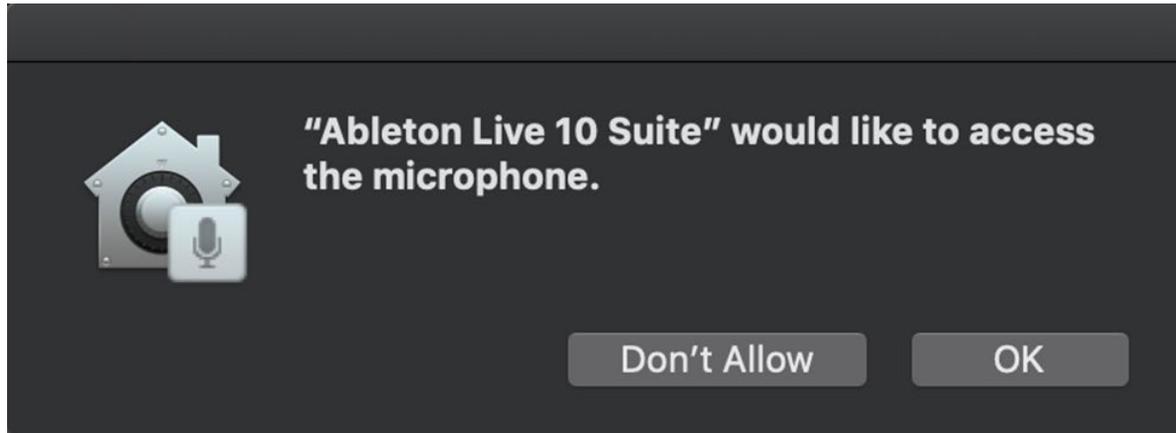
## macOSでの設定 (10.14、もしくはそれ以降)

macOS (10.14以降) のセキュリティ設定により、正しく設定されているにもかかわらず、入力信号が DAW に届かない場合があります。



この手順は Zen Q Synergy Core を初めて DAW で使用する場合に適用されます。

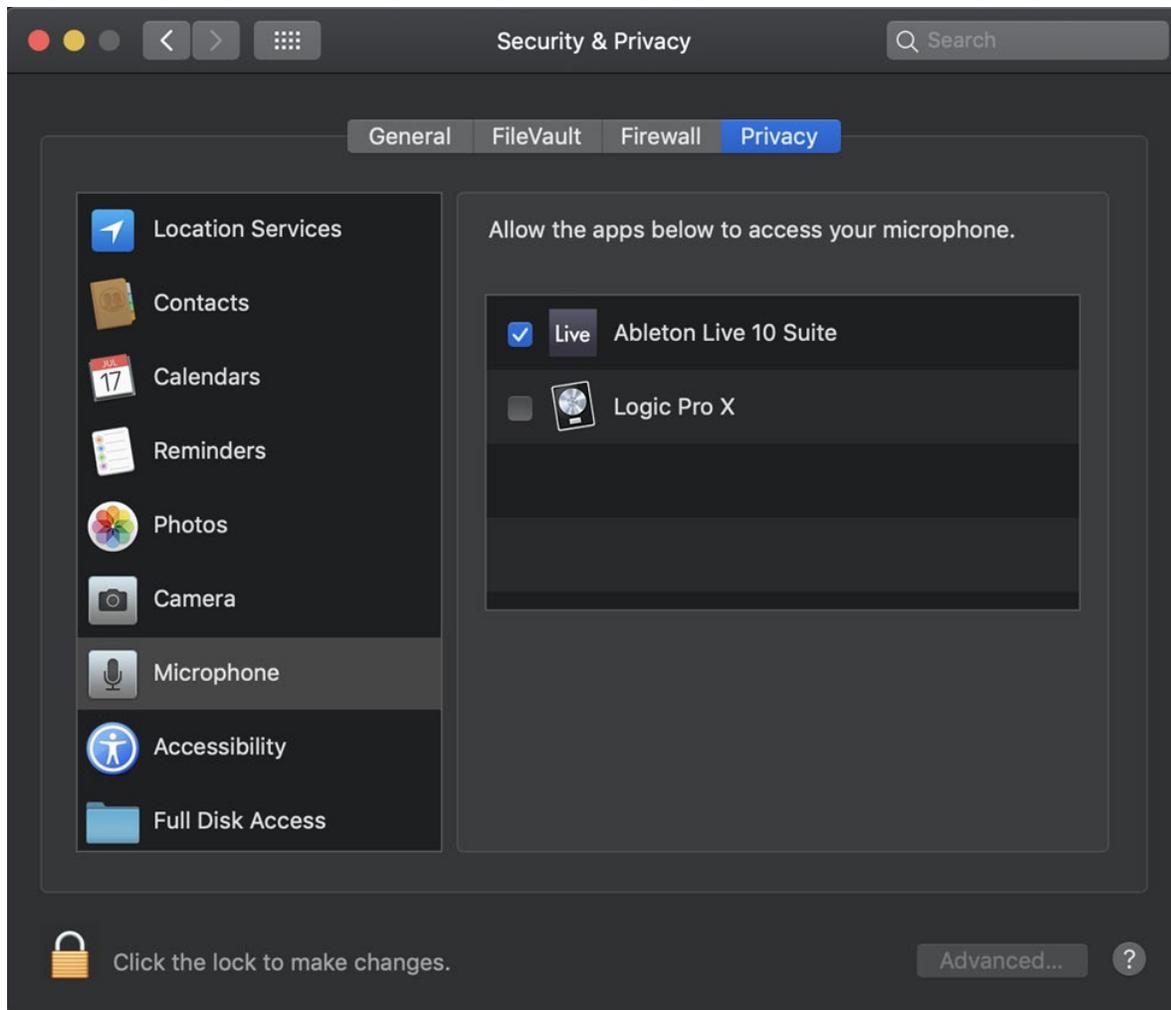
1. DAW を起動し入力デバイスとして Zen Q Synergy Core を選択します。次のようなダイアログボックスが表示されます（Ableton Live 10 Suite を使用している場合など）。



2. 「OK」をクリックすると DAW が正常に機能するようになります。

ただし、何らかの理由で上記の事象が発生しなかった場合や、複数の DAW を使用している場合は「Security & Privacy」の設定で、それぞれに手動で調整を行う必要があります。

1. 「Apple」マークをクリックし、「System Preferences」を選択します。「Security & Privacy」の設定メニューに入ってください。
2. 「Privacy」タブをクリックします。左側の列で「Microphone」を選択します。使用する DAW の横にチェックマークがついていることを確認します。



注：変更するには、左下の南京錠マークをクリックして、パスワードを入力する必要がある場合があります。



# THUNDERBOLT™ 3 の機能性

Zen Q Synergy Core の Thunderbolt™ 3接続により、以下の機能が実現します。

## デイジーチェーン

Thunderbolt™ 3 ではデイジーチェーン接続が可能です。デイジーチェーンとは、1つのデバイスを複数のデバイスの端に次々と接続することを意味します。例えば、2つの Thunderbolt™ 3 ポートを持つ外付けHDDに Zen Q Synergy Core を接続する場合を考えてみましょう。1つのポートは本機が占有し、もう1つのポートはコンピューターやチェーンの他の Thunderbolt™ 3 デバイスに接続します。

使用するためには以下のルールがあります。

1. Thunderbolt™ 3 の仕様では1つのチェーンに接続できるデバイスは6台までとなっています。ただし、以下のアップルコンピュータには6デバイスの制限は適用されません。

- 2018 MacBook Pro またはそれ以降
- 2018 Mac mini またはそれ以降
- 2017 iMac Pro またはそれ以降

これらのマシンはデュアル Thunderbolt™ 3 バスを搭載し、1つのチェーンで最大12台のデバイスをサポートします。

2. 各機器の電源が入っていないと後続の機器は動作しません。

3. Zen Q Synergy Core に電源を供給するデバイスは、Thunderbolt™を通じて最低5V (3A) の電流を出力する必要があります。

4. どのデバイスよりも下流の Type-C コネクタに USB またはDisplayPort デバイスが直接差し込まれた場合、Thunderbolt™ デイジーチェーンはその時点で終了します。

5. デイジーチェーン接続された機器間で Thunderbolt™ の帯域幅が共有されると、各機器が利用できる帯域幅は必然的に減少します。したがって、Antelope Audioでは可能な限りすべてのデイジーチェーン構成において、最適なパフォーマンスを保証することはできません。

## バスパワー

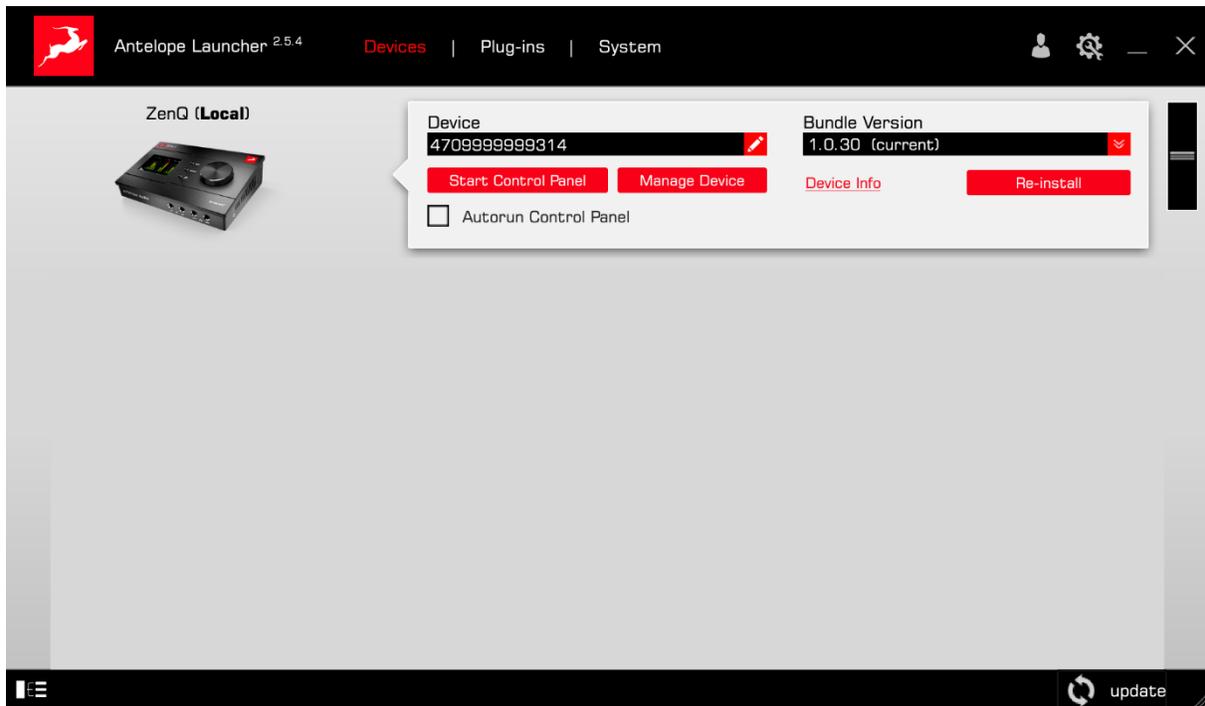
Zen Q Synergy Core はコンピュータの Thunderbolt™ ポートからバスパワーで駆動します。外部電源は必要ありません。



# ANTELOPE LAUNCHER

Antelope Launcher は Antelope Audio 製品の管理とトラブルシューティングのための合理的なハブです。このアプリケーションは、以下のタブで構成されています。

## ‘Devices’ タブ



現在コンピュータに接続されている全ての Antelope Audio 機器がこのセクションに表示されます。アプリケーションの機能は各 Antelope デバイスで同じです。

以下の機能は「Devices」タブで利用できます:

### Device

黒いフィールドをクリックしてデバイスの名前を入力します。デフォルトではデバイスのシリアル番号が使用されます。名前を消して欄外をクリックすると、シリアル番号に戻ります。

### Bundle Version



デフォルトでは、このドロップダウンメニューにはお使いのデバイスで利用可能な最新のソフトウェアバンドルが表示されます。ソフトウェアをアップデートしたり、古いバージョンに戻したりするには、ドロップダウンメニューから希望のバンドルバージョンを選択し「Update」ボタンをクリックします。

バンドルバージョンには以下のソフトウェアパッケージが含まれています：

Device Firmware

Device Software Control Panel

Device Drivers

## Start Control Panel

クリックすると本機のコントロールパネルアプリケーションが起動します。デバイスの写真をクリックすることもできます。「Autorun Control Panel」にチェックを入れると、Antelope Launcher を起動したときに、特定のデバイスのコントロールパネルが自動的に起動します。

**注：**ファイアウォールなど、オペレーティングシステムのプロンプトはご自由にバイパス状態にしてください。

## Manage Device

クリックするとAntelope Management Wizard が起動します。デバイスの登録/解除、機能（AFX2DAW、Synergy Core FXなど）の割り当て/解除に使用します。

## Device Info

クリックすると以下の情報が表示されます（トラブルシューティングに役立ちます）。

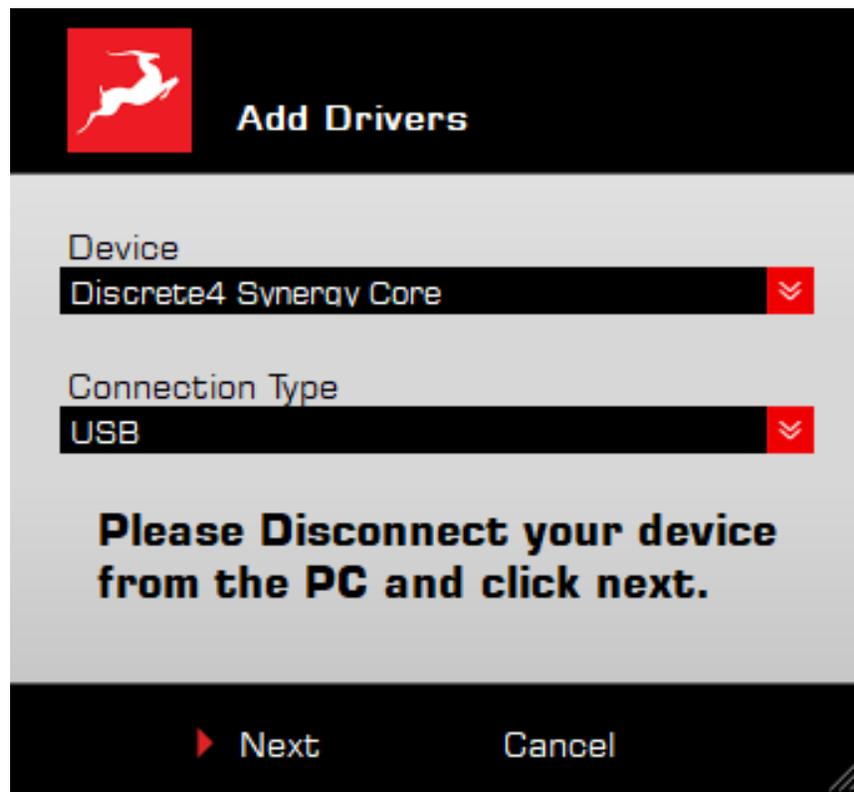
- Serial number
- Hardware version
- Firmware version
- Control Panel version
- USB/Thunderbolt™ driver version
- Software Bundle version



再度クリックして閉じます。

## Not seeing your device?

デバイスがリストから消えている場合、最も多い原因はドライバーのコンフリクトです。Antelope Launcher を使えばドライバーの再インストールやトラブルシューティングが簡単にできます。「Not looking your device?」をクリックすると「Add Drivers」ウィザードが起動します。

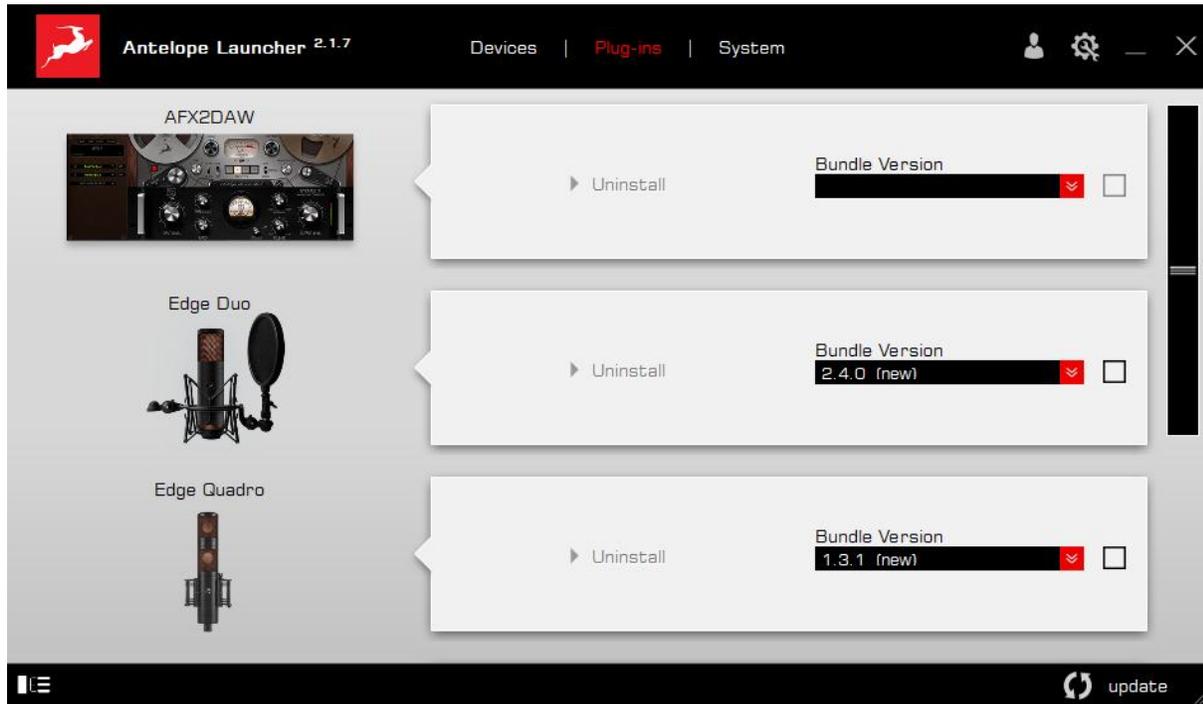


ドロップダウンメニューからデバイスと接続タイプを選択し、コンピュータからデバイスを取り外し「次へ」をクリックしてドライバーの再インストールを実行します。

注：それでも問題が解決しない場合には [Antelope Audio Customer Support](#) までご連絡ください。



## 'Plug-ins' タブ



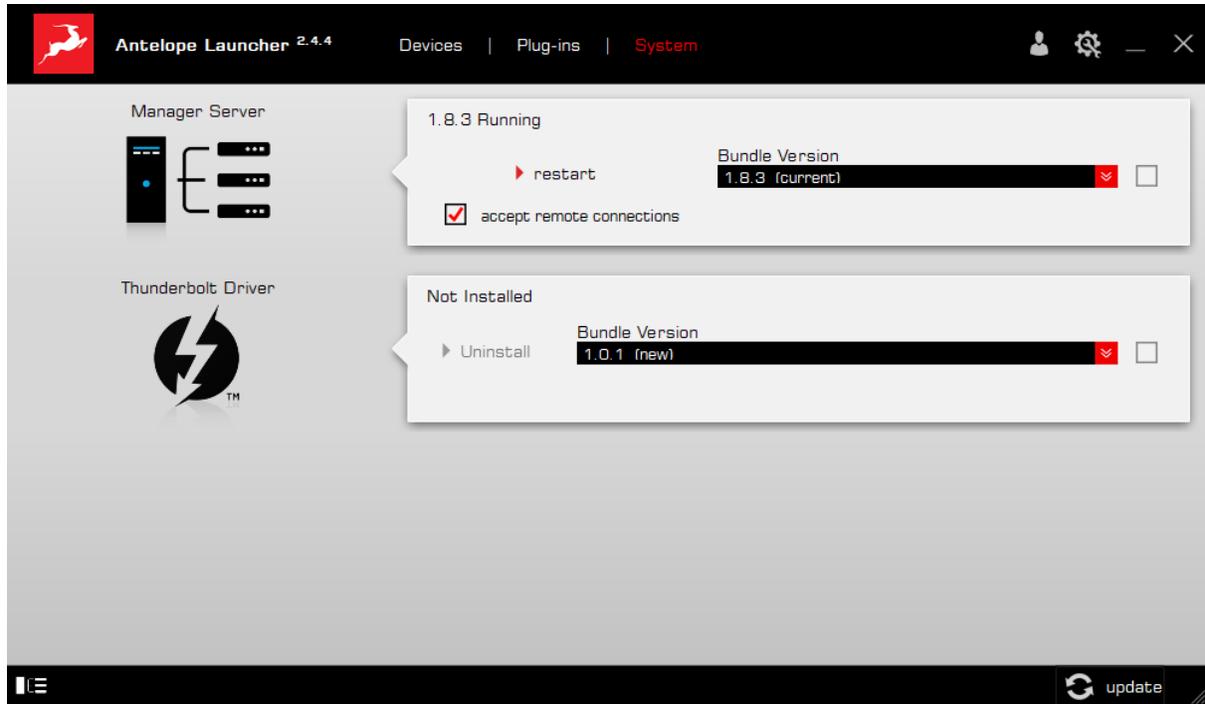
このセクションでは、ネイティブマイクエミュレーションや AFX2DAW などの Antelope Audio ソフトウェアのインストール、アップデート、アンインストールを行います。

デフォルトでは、Bundle Version ドロップダウンメニューには各製品で利用可能な最新のソフトウェアバンドルが表示されます。メニューをクリックすると、現在インストールされているソフトウェアバンドルのバージョンが表示され、古いビルドにロールバックすることができます。

インストールされているソフトウェアのバージョンを更新または変更するには、希望するバンドルバージョンを選択し、ドロップダウンメニューの横にあるチェックマークをクリックして、右下の「Update」ボタンをクリックします。



## 'System' タブ



ここでは以下のことができます：

- Manager Server と Thunderbolt™ Driver のバージョンを更新またはロールバックします。ドロップダウンメニューからご希望のバンドルバージョンを選択し、チェックマークをクリックして、右下の「Update」ボタンをクリックします。
- Manager Server を再起動し、ネットワーク上の他のコンピュータからのリモート接続を有効/無効にする。
- Antelope Audio Thunderbolt™ ドライバーをインストールします。ドロップダウンメニューから Bundle Version を選択し、チェックマークをクリックして、「Update」ボタンをクリックします。
  - このメニューでは、必要に応じてデバイスバンドルを更新せずに、デバイスドライバーを手動で再インストールすることができます。



## Login ボタン

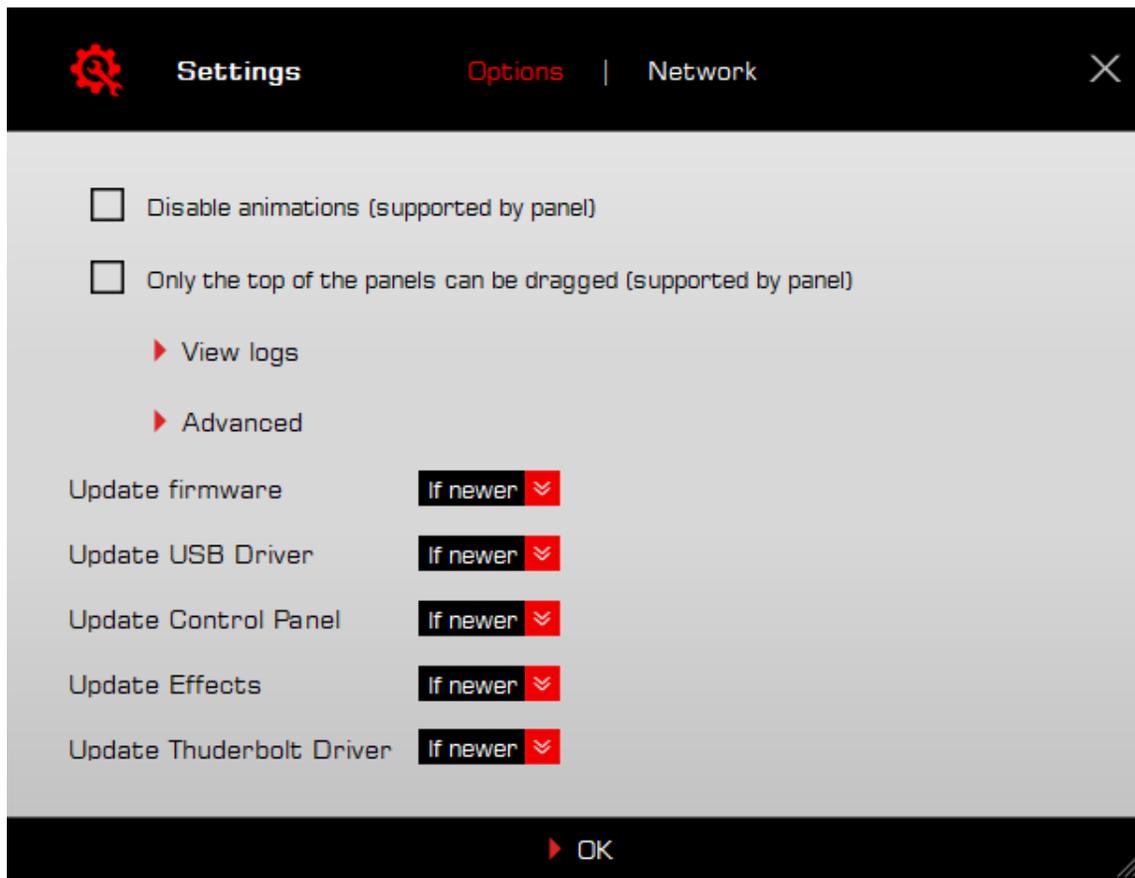


Antelope Audio のユーザー名とパスワードをクリックして入力し、「Login」をクリックします。Antelope Audio のアカウントをお持ちでない方は、「Register」をクリックし、画面上の指示に従ってください。

## Settings ボタン



クリックすると「Settings」画面が表示されます。





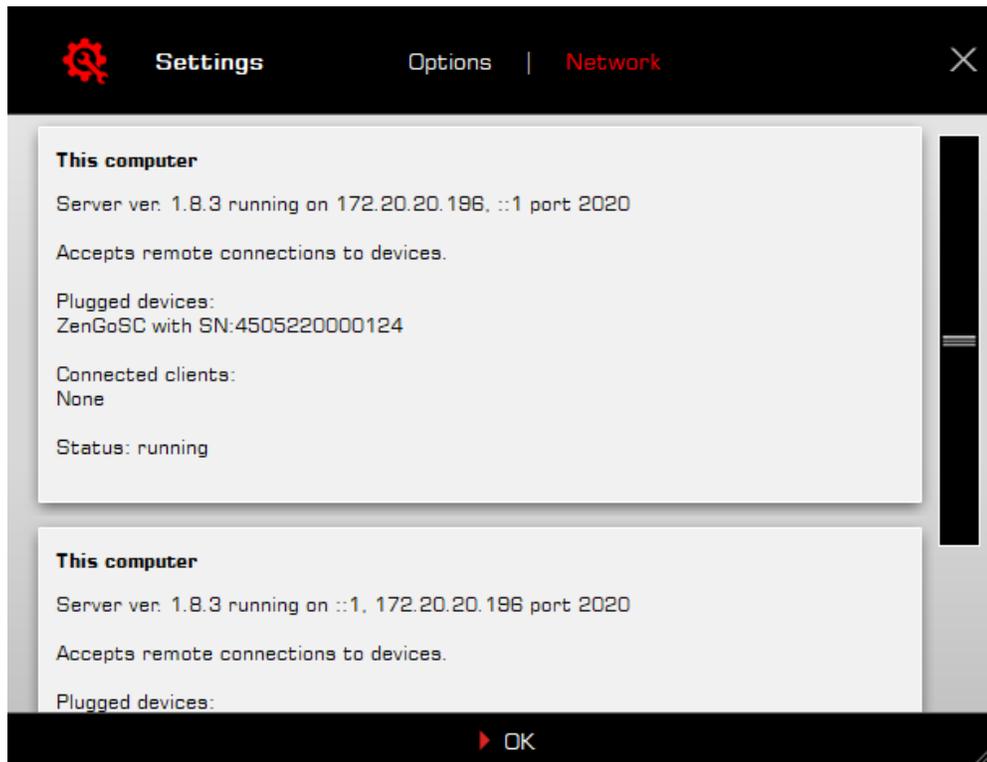
ここでは以下のことができます：

- 「View Logs」をクリックすると、アクティビティログの表示、保存、および Antelope Audio カスタマーサポートへの送信ができます。
- 「Advanced」をクリックして、以下の各項目の自動更新を有効または無効にします。

- Device firmware
- USB Driver
- Control Panel
- Effects
- Thunderbolt™ driver

ドロップダウンメニューで選択し、「OK」をクリックしてください。

- 「Network」をクリックすると、ネットワークの状態やログが表示されます。





# ハードウェアパネルの説明

## トップパネル



### 1. ディスプレイ

ディスプレイ上で下記の情報を確認することができます：

- アナログ入力（入力1-2）、S/PDIF入力（チャンネル1-2）、HP1出力（L/Rチャンネル）など、最大3つの入出力に対するゲイン/ボリュームメーター。
- 現在のクロックソース - 内部、S/PDIF、ADAT。
- ロックインジケータ：本機がデジタルオーディオおよびクロックソースに「ロック」されているときに点灯します。
- 現在のデバイスのサンプルレート（例：32kHz - 192kHz）。

注：ディスプレイはタッチスクリーンではありません。



## 2. ファンクションキー- Gain, HP/MON, Antelope ボタン

'Gain' ボタン - 「Gain」ボタンには以下の機能があります。

- 「Gain」を押して（押し続けて）、インターフェイスのアナログ入力の入力ゲイン調整を循環させます。入力 A1 と A2 については、ロータリーコントロールを押し続けると48Vファンタム電源を有効または無効にすることができます。入力 G1 と G2 の場合、ロータリーコントロールを押して Line と Hi-Z モードを切り替えます。ロータリーコントロールを回して入力ゲインを調整します。「Antelope ボタン」を押して終了します。
- 「Gain」を長押しして **コントロールメニュー** に入ります。

### コントロールメニュー

ロータリーコントロールを回してメニューをナビゲートし、エントリーを選択します。ロータリーコントロールを押して、そのエントリーのサブメニューに入ります。ロータリーコントロールを回して、利用可能なオプションを参照し、調整します。ロータリーコントロールを押して確認します。

コントロールメニューには以下の項目があります：

- Power OFF - ロータリーコントロールを押してスタンバイ状態にします。もう一度押すと、デバイスが起動します。
- Clock Source - クロックソースを選択します（Internal, S/PDIF, ADAT）。
- Sample Rate - デバイスのサンプルレートを選択します（32kHz - 192kHz）。DAWやOSのサンプルレートと一致するように選択してください。
- Monitor Trim - モニター出力のオーディオ信号のトリム値を選択します（14dBu -20dBu）。デフォルトではこのオプションは20dBuに設定されています。トリムは、2台以上のスピーカーの音量差を補正して、同じ音量レベルになるようにするために使用します。
- Line Out Trim - モニター出力のオーディオ信号のトリム値を選択します（14dBu -20dBu）。デフォルトでは、このオプションは20dBuに設定されています。

「Antelopeボタン」を押してコントロールメニューを終了します。



「HP/MON」ボタン - 「HP/MON」ボタンは、以下の機能を備えています。

- 「HP/MON」を押す（押し続ける）と、ヘッドフォン（HP1、HP2）、モニター、ラインの各出力の音量調整が切り替わります。ロータリーコントロールを回して音量を調整します。ロータリーコントロールを押して、ミュートとミュート解除を行います。「Antelope Button」を押して終了します。
- 「HP/MON」ボタンを長押ししてシステムメニューに入ります。

## システムメニュー

ロータリーコントロールを回してメニューをナビゲートし、エントリーを選択します。ロータリーコントロールを押して、そのエントリーのサブメニューに入ります。ロータリーコントロールを回して、利用可能な選択肢を参照し、調整します。ロータリーコントロールを押して確定します。

システムメニューには以下の項目があります。

- Device Info - デバイスのシリアル番号、ハードウェアバージョン、ファームウェアバージョンを表示します。この情報はカスタマーサポートに問い合わせる際に役立ちます。ロータリーコントロールを回すとシステムメニューに戻ります。
- Scr Save Time - 本機がアイドル状態のときにディスプレイのスクリーンセーバーが表示される時間を選択します。選択肢は、「Off」（スクリーンセーバー無効）から最大120分までです。ディスプレイの焼き付きを防ぐために、最も短い時間を選択することをお勧めします。
- Scr Save Style - スクリーンセーバーのスタイルを選択します（スターまたはブラック）。
- Factory Reset - ロータリーコントロールを押すと、本機を工場出荷時の設定に戻すことができます。これはトラブルシューティングの際に便利で、プリセットを素早く消去する方法でもあります。

「Antelopeボタン」を押してコントロールメニューを終了します。

「Antelope ボタン」 - メニューの中にいるときにボタンを押すと、メニューを終了することができます。



### 3. ロータリーコントロール

ゲインやボリュームなどの値を正確に調整するための大型のステップ式エンコーダ。メニュー操作にも使用される。

- メニューに表示されていない場合、エンコーダーを回して Line 出力の音量を調整します。
- メニュー以外では、エンコーダーを押してライン出力のミュート/ミュート解除を行います。

## フロントパネル



Zen Q Synergy Core のフロントパネルには切り替え可能な Line/Hi-Z 楽器入力（ラベルは「G1」と「G2」）と、ステレオヘッドフォン出力（ラベルは「HP1」と「HP2」）があります。ヘッドホン出力は、本体トップパネルの「HP/MON」ボタンや、Windows/macOSのコントロールパネルアプリケーションからアクセスできる専用のボリュームコントロールを備えています。



## リアパネル



Zen Q Synergy Core のリアパネルは左から右に向かって以下のようにレイアウトされています。



### アナログインプット A2、A1

3ピン XLR と 1/4 インチ TS/TRS コネクタを組み合わせた、マイク/ラインレベル/ハイインピーダンスインストゥルメント (Hi-Z) のデュアルモノラル入力を装備。インターフェイスのトップパネルコントロールまたは Windows/macOS のコントロールパネルアプリケーションを使用して、動作モード (マイク/ライン/Hi-Z) を選択し、コンデンサーマイク用の 48V ファンタム電源を有効または無効にします。

**重要!** 必ず以下の接続を行ってください。

- マイクの接続には3ピンの XLR マイクケーブルを使用します。一般的な注意事項として、ダイナミックマイクやリボンマイクを接続する前に、48V ファンタム電源がオフになっていることを確認してください。
- ラインレベルのオーディオソース (シンセサイザーやキーボードなど) を1/4インチTS (アンバランス、モノラル) または TRS (バランス、モノラルおよびステレオ) のオーディオケーブルで接続します。
- ハイインピーダンスの電気楽器 (エレキギターやベースなど) は、1/4インチTS (アンバランス、モノラル) の楽器用ケーブルで接続します。



プロオーディオの世界では、ラインレベルの機器を接続する際に、1/4インチTS/TRSオーディオケーブルではなく、3ピンバランス XLR（マイク）ケーブルを使用することが少なくありません。しかし、ここではこの方法は正しくありません。

ラインレベルの機器を XLR ケーブルで Zen Q Synergy Core に接続すると、インターフェースのマイクプリアンプが作動し、ラインレベルの信号が耳に聞こえるほど増幅されてしまいます。なお、Windows/macOS のコントロールパネルアプリケーションの「PREAMPS」タブで「LINE」を選択しても、この現象は防げません。

お使いのラインレベル機器がXLR接続に限定されている場合、標準的な3ピンXLR-1/4インチTRSアダプターを取り付ければ、バランスXLR（マイク）ケーブルを使用することができます。また、3ピンXLR-1/4インチTRSオーディオ/マイクロフォンケーブルも販売されています。適切なアダプターやケーブルを入手するには、ご使用の機器のライン出力に使用されている XLR コネクターのタイプ（オスまたはメス、通常はオス）を正確に確認してください。



### モニターアウトプット

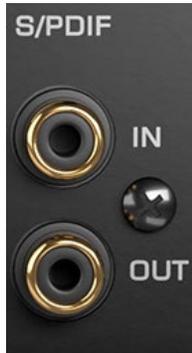
1/4インチTRS端子のステレオモニター出力（L/R）。





## ラインアウトプット

1/4インチ TRS端子のライン出力1と2。



## S/PDIF デジタルオーディオインプット/アウトプット

コアキシャル RCA ケーブルで2chのステレオデジタル音声を入出力。



## ADAT インプット

トスリンクコネクタを使用した ADAT による8系統のデジタルオーディオ入力を供給します。互換性のある機器で使用します。サンプルレートに応じて、標準的な ADAT Lightpipe オーディオの制限が適用されます。

- 44.1/48 kHz – 8 inputs
- 88.2/96 kHz – 4 inputs
- 176.4/192 kHz – 2 inputs



## Thunderbolt™ 3 ポート

Type-C コネクタの Thunderbolt™ 3 ポートを使用したコンピュータとの接続にて使用可能

### 重要！

従来の Thunderbolt™ 2 および 1 の外部アダプターによる接続は、電力供給が不十分なため互換性がありません。

Zen Q Synergy Core は Thunderbolt™ 3 にのみ対応しています。

Macのポートを特定する方法 (<https://support.apple.com/en-us/HT201736>)



## ケンジントンロック

キオスク、店舗、デモルームなどで本機を物理的にロックするための盗難防止システム。



# CONTROL PANEL アプリケーション



Zen Q Synergy Core Windows/macOS Control Panel アプリケーションへようこそ! Control Panel は物理的なトップパネルコントロールの代わりというだけでなく、インターフェイスの機能の各側面に簡単かつ包括的にアクセスすることができます。設定、シグナルルーティング、オーディオミキシング、エフェクトチェーン、モニタリング、メータリング、プリセットなどが含まれます。新しいオーディオインターフェイスを最大限に活用するために、ぜひこのアプリケーションを使いこなしてみてください。

## クイックスタート

ここでは Control Panel で行う基本的な作業の例をご紹介します。

**注意:** これらの例は以下のタスクを実行するための「正しい」または「唯一の」方法を示すものではありません。これらの例は基本的な論理を説明し、初心者ユーザーが最初に遭遇する問題の解決策を提供するものです。



## マイクからの音声をヘッドフォンでモニターする

入力 A1 から入ってくるマイク音声をヘッドフォン出力1 (HP1) でモニターしたいとします。機器を接続して Control Panel を開き、次のようにします:

1. 「PREAMPS」セクションで、一番左のプリアンプに向かい、シグナルタイプセレクターのドロップダウンメニューをクリックします。マイク」を選択し、マイクが必要な場合は48Vファンタム電源を有効にすることを忘れないでください。
2. 「AFX」エリアの上にある入力セレクターをクリックし、メニューから「PREAMPS」>「PREAMP 1」を選択します。
3. ヘッドフォンからマイクの音声が聞こえるようになるまで、入力ゲインとヘッドフォン出力レベルを調整します。

## 入力されたオーディオに Synergy Core FX を適用する

入力セレクターの下にある「AFX」エリアをクリックして、Synergy Core FX rack ウィンドウを開きます。ADD NEW EFFECT」ボタンをクリックして選択してください。完了したらウィンドウを閉じてください。

スタジオモニターで聴きながらバーチャルなアンプやキャビネットでギターを演奏することができます。

1. ギターをインプットA1に入力し、モニターをインターフェイスのモニター出力に接続します。
2. Control Panel を開き「PREAMPS」の列の一番左のエリアに向かいます。シグナルタイプセレクターのドロップダウンメニューから「Hi-Z」を選びます。
3. 「AFX」エリアの上にある入力セレクターをクリックし、メニューから「PREAMPS」>「PREAMP 1」を選択します。



4. 入力セクターの下にある「AFX」エリアをクリックして、Synergy Core FX Rack を開きます。「ADD NEW EFFECT」をクリックし、メニューからギターアンプとキャビネットを選択します。どこから始めたらよいかわからない場合は、「Modern (US)」アンプと「Modern 4 x 12」キャビネットの組み合わせで、モダンロック/メタルの素晴らしいリグを作ることができます。

## マイクのエミュレーションで歌い、ヘッドフォンでライブモニターする

1. ヘッドフォンをフロントパネルの入力 HP1 に接続します。
2. Antelope Audio の Edge または Verge モデリングマイクを、リアパネルの入力 A1 または A2 に接続します。この例では入力 A1 に接続した Edge Solo を使用しています。
3. Control Panel を開き、PREAMPS の列から一番左のプリアンプに向かいます。「AFX」エリアの上にある入力セクターをクリックし、メニューから「PREAMPS」>「PREAMP 1」を選択します。  
 マイクエミュレーションボタンをクリックして、マイクエミュレーションウィンドウを開きます。ダイヤルで「Edge Solo」を選択し、ドロップダウンメニューからエミュレーションを選択します。
5. ゲインノブでマイクのゲインを調整します。この時点でヘッドフォンからマイクの音声が聞こえてくるはずです。

## DAW でレコーディングする

Zen Q Synergy Core でのレコーディングはとても簡単です。まず、お使いの DAW でインターフェイスがメインの入出力デバイスとして選択されていることを確認します。次に Control Panel を開き「DAW I/O」をクリックします。以下の点に注意してください:

- DAWの入力1~8は「TO DAW」の列で「Record 1~8」と表示された8チャンネルに対応しています。入力セクターを使ってオーディオソースを選び、「AFX」エリアから Synergy Core FX を追加します。その後、DAWで新しいトラックを作成し、「Record 1」=「Input 1」のように一致する番号の入力を割り当てます。
- 同様に、DAW の出力1~8は「FROM DAW」の行で「PLAY 1~8」と表示されているチャンネルに対応しています。これらのチャンネルは、入力セクターでオーディオ入力として選択できます。



出力 1~8 を DAWの外に出したいオーディオトラックに割り当てます。Control Panel では「COMPUTER PLAY」1-8をクリックして選択します。

## マウス&キーボードのショートカット

以下の機能は Control Panel アプリケーションのマウスとキーボードのショートカットでアクセスできます。

- - デフォルト値に戻す (すべてのノブとフェーダー)。  
ノブまたはフェーダーをダブルクリックします。
- 「PREAMPS」セクションの2つの入力チャンネルのテキストラベルを変更する。  
テキストラベルをダブルクリックしてテキストを入力。
- パラメータ値を1dB単位で調整する (すべてのノブとフェーダー)。  
Ctrl (Windows) / Command (macOS) を押しながらドラッグします。
- ピークメーターのアクティブなクリッピングインジケータをクリックしてクリアする。
- Zen Q Synergy Core Control Panel アプリケーションウィンドウの端をクリック&ドラッグしてサイズを変更できます。

## メインビュー

Control Panel アプリケーションは、上から下に向かって以下のように構成されています：



### Function strip 1

下記の機能を含みます：



## On/Standby ボタン

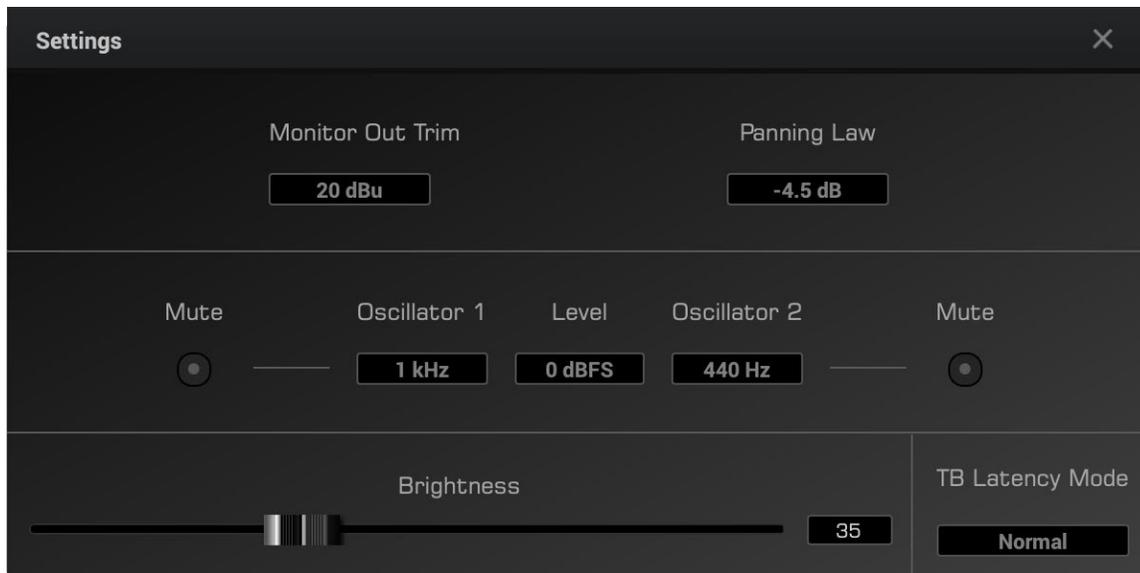
クリックするとZen Q Synergy Core がスタンバイモードになります。もう一度クリックすると電源が入ります。



## セッティングボタン

クリックすると以下のオプションを持つ Settings Window が開きます。

## Settings Window



### Monitor Out Trim

クリックするとモニター出力のオーディオ信号のトリム値 (14dBu~20dBu) を選択できます。デフォルトでは、このオプションは20dBuに設定されています。



	<p>トリムは2台以上のスピーカーの音量差を補正して、同じ音量レベルになるようにするために使用します。</p>
<b>Line Out Trim</b>	<p>クリックするとライン出力のオーディオ信号のトリム値 (14dBu~20dBu) を選択できます。デフォルトでは 20dBu に設定されています。</p>
<b>Panning Law</b>	<p>クリックすると Panning Law の補正量を0dB (なし) から-4.5dBの間で指定できます。モノラル入力がステレオバスに供給される場合、Pan Law はオーディオがステレオフィールドの片側から反対側にスイープする際に、サウンドレベルをどのように知覚するかを決定します。オーディオを左右にパンニングすると知覚される音量レベルに顕著な違いが生じる場合は、Pan Law の補正を調整して、インターフェイスの出力をリスニング機器に合わせて調整してください。</p>
<b>Mute</b>	<p>クリックすると Oscillator 1 のミュート/アンミュートができます。</p>
<b>Oscillator 1</b>	<p>クリックして Oscillator 1 の周波数 (440Hzまたは1kHz) を選択します。Oscillator 1 はトラブルシューティングやカリブレーションのためにモニター出力に供給されるテスト信号を生成します。</p>
<b>Level</b>	<p>クリックすると Oscillator 1 と Oscillator 2 の出力レベルを選択できます (-18dBFS - 0dBFS) 。</p>
<b>Oscillator 2</b>	<p>クリックして Oscillator 2 の周波数を選択 (440Hzまたは1kHz) を選択します。</p>



	Oscillator 2 はトラブルシューティングやカリブレーションのためにモニター出力に供給されるテスト信号を生成します。
<b>Mute</b>	クリックすると Oscillator 2 のミュート/アンミュートができます。
<b>TB Latency Mode</b>	クリックすると Thunderbolt™ のレイテンシーモードを変更することができます。オーディオの不具合や中断が発生する場合は、様々な設定をお試しください。



### 最小化ボタン

クリックすると Zen Q Synergy Core Control Panel アプリケーションが最小化されます。



### 最大化ボタン

クリックすると Zen Q Synergy Core Control Panel アプリケーションウィンドウが最大化されます。もう一度ボタンをクリックするか、隣接する「リサイズボタン」をクリックすると、デフォルトのサイズに戻ります。



### リサイズボタン

Zen Q Synergy Core Control Panel アプリケーションウィンドウを最大化したり、手動でサイズを変更した場合、このボタンをクリックするとデフォルトのサイズに戻ります。



### クローズボタン



クリックして Zen Q Synergy Core Control Panel アプリケーションを閉じます。



## Function strip 2

下記の機能を含みます：



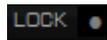
### Clock Source セレクター

クリックしてドロップダウンメニューからクロックソース (Internal、S/PDIF、ADAT) を選択します。



### Sample Rate セレクター

クリックするとドロップダウンメニューからデバイスのサンプルレート (32kHz～192kHz) を選択できます。DAW や OS のサンプルレートと一致するように選択してください。



### Lock インジケータ

本機がデジタルオーディオおよびクロックソースに「ロック」されているときに点灯します。



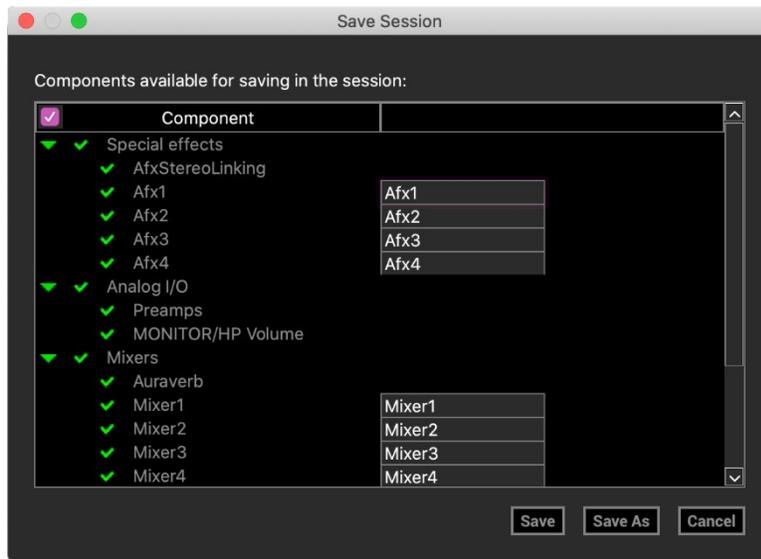
### Session コントロール

"Session" は Control Panel の設定の「スナップショット」です。他のコンピューターや Zen Q Synergy Core のユーザーと保存、読み込み、共有できる Control Panel のプリセットと考えてください。

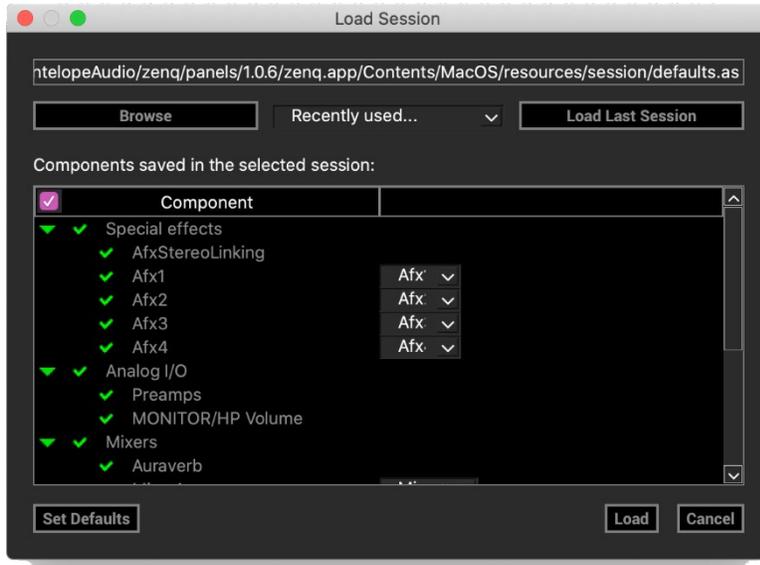


「Save」 ボタンの左にあるフィールドには、現在読み込まれているSession ファイルが表示されます。  
「Save」 および 「Load」 ボタンをクリックすると、Session ファイル(\*.as)の保存と読み込みができます。

「Save Session」 ウィンドウでは保存したいコンポーネントを正確に選択し、「Save As」 ボタンから Session ファイル(\*.as)をエクスポートすることができます。セッションがすでに\*.asファイル形式で保存されている場合は「Save」 ボタンをクリックして、Session に加えた変更を保存します。



「Load Session」 ウィンドウではコンピューター上のセッションファイル (\*.as) を検索し、ロードするコンポーネントを選択することができます。また、最近ロードしたセッションのドロップダウンリストから選択したり、最後に使用したセッションをロードすることもできます。「Set Defaults」 ボタンをクリックすると、コンポーネントの選択をデフォルト設定に戻すことができます。「Set Defaults」 ボタンをクリックした後に「Load」 ボタンをクリックすると、Control Panel アプリケーションがデフォルトの状態に戻ります。



## Preamps strip



Zen Q Synergy Core のアナログオーディオ入力に関する以下のコントロールが含まれています。



### Signal type セレクター

クリックするとドロップダウンメニューからレコーディングする信号タイプを選択できます。

- **Mic** - マイクでのレコーディング時に選択します。
- **Line** - シンセサイザー、キーボード、サンプラー、ミキサー出力、外部プリアンプ、エフェクターなど、ラインレベルの楽器や機器をレコーディングする際にお選びください。
- **Hi-Z** - アクティブまたはパッシブなマグネティックピックアップを搭載したエレクトリックギターやベース、ピエゾピックアップを搭載したエレクトロアコースティック楽器など、エレクトリックな弦楽器をレコーディングする際に選択します。



## Link ボタン

クリックすると入力 A1~A2 および G1~G2 のコントロールがリンクします。リンクすると、一方の入力のコントロールに変更を加えても、もう一方の入力に自動的に反映されます。リンクを解除するにはもう一度クリックしてください。



## Gain コントロール

クリック&ドラッグで入力ゲインを調整します。使用できるゲインの範囲は信号の種類によって異なります。

- Mic: 0dB to 65dB
- Line: -6dB to 20dB
- Hi-Z: 0dB to 60dB

目安としては、入力信号がピークメーターで常に -12dB 付近にピークを持つようになるまでゲインを調整します。これを達成してもノイズ（ヒスやハムなど）が多すぎる場合は、快適な S/N 比（信号は弱すぎず、ノイズはずっと静かで聞き取れない程度）になるまでゲインを下げます。また、ノイズゲートを使用することもできます。

いずれの方法でも満足いく結果が得られない場合は、シグナルチェーンや機器に問題がある可能性があります。例えば、低感度のダイナミックマイクは増幅時にノイズが発生しやすい、電子楽器の磁気ピックアップは EMI (Electro-Magnetic Interference) の影響を受けやすく、ハムやバズが発生しやすい、アナログ機器の電子部品は経年劣化しやすい、ケーブルの品質や劣化が信号を劣化させる、などが挙げられます。機器を点検し、適切なゲインステージング（信号チェーンの1つのユニットから次のユニットの入力への出力が弱すぎたり強すぎたりしないようにすること）をおこなってください。



## ピークメーター

入力信号の強さを視覚化します。Zen Q Synergy Core のディスプレイにはピークメーターも存在します。ピークメーターが赤になっているときは、信号が強すぎることを意味し、音の歪みやクリッピングによって劣化していることを示します。たまに黄色に沈むことがあっても問題ありません。



## 48V ボタン

コンデンサーマイク用の 48V ファンタム電源を有効にするには、Ctrl (Windows) / Command (Mac) を押しながらクリックします。もう一度クリックすると解除されます。一般的な注意事項として、ダイナミックマイクやリボンマイクを接続する前に、必ず 48V ファンタム電源を無効にしてください。



## フェイズフリップボタン

クリックすると入力信号の位相が反転します。もう一度クリックすると通常の状態に戻ります。レコーディングする前に、入力信号の位相を反転させた場合と反転させない場合の音を確認しておくとい良いでしょう。



## マイクエミュレーションボタン

「マイク」モードで表示されます。クリックすると「Edge & Verge」のマイクエミュレーションウィンドウが開きます。マイクエミュレーションについては '[Edge & Verge Mic Emulations](#)' chapter. をご覧ください。



CH 1

## テキストラベル

クリックしてテキストを入力するとチャンネルのラベルが変更されます。

MONITORS & HEADPHONES DIGITAL OUTS DAW  MIXER 8 16

## Function strip 3

以下の内容を含みます：

MONITORS & HEADPHONES DIGITAL OUTS DAW I/O

### Control Panel View セレクター

Control Panel をクリックすると「Monitors & Headphones」、「Digital Outs」、「DAW I/O」の3つのビューが表示されます。この3つの表示方法については、後述の「コントロールパネルの表示方法」の章で説明します。これらのビューを理解することは、Zen Q Synergy Core を操作する上で非常に重要です。

 AuraVerb

### AuraVerb ボタン

クリックすると AuraVerb エフェクトウィンドウが開きます。AuraVerb については [AuraVerb sub-chapter](#) をご覧ください。

MIXER 8  16

### Mixer 8 - 16 スイッチ

クリックすると「Monitors & Headphones」ビューのミキサーが8から16オーディオチャンネルに拡張されます。



## Control Panel Views

「Monitors & Headphones」、「Digital Outs」、「DAW I/O」の3つのControl Panel ビューには Zen Q Synergy Core のアナログおよびデジタルオーディオ出力用の入力セレクター、Synergy Core FX チェーン、ミキサーコントロール、ボリュームコントロール、ピークメーターが含まれています。Control Panel アプリケーションの活動の大半はここでおこなわれますので、ぜひ本章をよくお読みください。



### Monitors & Headphones ビュー

「Monitors & Headphones」ビューには、3つの独立した 16 チャンネルのバーチャルミキサーが含まれています。1つ目は Zen Q Synergy Core の Monitor と Headphone 1 (HP1) 出力にルーティングされ、左の「Monitor/HP1」タブからアクセスします。2つ目は、セカンダリーヘッドフォン出力 (HP2) にルーティングされ、左下の「Headphones 2」タブからアクセスします。3つ目は、インターフェイスのリアパネルにあるライン出力1と2にルーティングされ、左下の「Line Out」タブからアクセスします。



**重要!** 3つのミキサーはオーディオ入力と適用される Synergy Core FX を共有していますが、パンコントロール、ボリュームフェーダー、ソロ/ミュート/リンクコントロールはそれぞれ個別に行われます。上から下に向かって、「Monitors & Headphones」ビューは以下のように構成されています。



## インプットセレクター

ミキサーの各チャンネルにはその上部にオーディオインプットセレクターがあります。インプットは色分けされています。インプットセレクターをクリックして選択してください。以下の入力を備えております。

<b>PREAMP 1 - 4</b>	アナログインプット A2~A1、G1~G2。
<b>EMU MIC 1 - 2</b>	アナログインプット A2 - A1 に Antelope Audio Edge & Verge Mic Emulations を適用する。この方法では、PREAMP 1 - 2からの「ドライ」マイク音声と EMU MIC 1 - 2 からの「マイクエミュレーション」マイク音声を異なるミキサーや DAW のチャンネルでモニターし、レコーディングすることができます。
<b>COMPUTER PLAY 1 - 8</b>	DAW の出力 1~8。DAW の出力 1~8 にオーディオトラックを割り当て、同じ番号の COMPUTER PLAY 入力を入力セレクターから選択します。こうすることで DAW のオーディオをインターフェイスの出力にルーティングし、Synergy Core FX で処理することができます。
<b>S/PDIF IN 1 - 2</b>	入力される S/PDIF ステレオデジタルオーディオの 2 チャンネル。
<b>ADAT IN 1 - 8</b>	最大 8 チャンネルの ADAT デジタルオーディオを入力します。
<b>MUTE</b>	オーディオインプット無し（ミュート）。
<b>OSCILLATOR 1 - 2</b>	Oscillators 1 と 2 のテストシグナル。



## AFX strip

ミキサーのチャンネル 1～6 は、インプットシグナルに Synergy Core FX を適用するためのものです。チャンネル 1 から 6 の上にある AFX エリアをクリックすると、FX ラックが開きます（後述）。エリア内の「BP」ボタンをクリックすると、そのチャンネルに適用されているすべての FX がバイパスされます。

## Synergy Core FX Rack

クリックすると「Synergy Core FX Rack」が開きます。画像のような形をしており、以下のような機能があります：



- 「SAVE」ボタンと「LOAD」ボタンで FX チェーンの保存と呼び出しを行います。  
「BP ALL」ボタンをクリックすると、ラック内のすべての FX をバイパスすることができます。再度クリックすると、再び有効になります。
- Ctrl (Windows) または Command (Mac) を押しながら「DEL ALL」ボタンをクリックすると、FX ラックがクリアされます。
- オーディオインプットのラベルの下にあるドロップダウンメニューをクリックして、ファクトリープリセットを選択します。
- 「ADD NEW EFFECT」ボタンをクリックして Synergy Core FX を追加します。右側にグラフィックとパラメーターが表示されます。



- 左側では FX をクリック&ドラッグして、エフェクトチェーン内の順番を変えることができます。各エフェクトの横には、そのエフェクトをバイパスするための「BP」ボタンが用意されています。
- Ctrl (Windows) または Command (Mac) を押しながらドラッグすると、エフェクトのパラメーターをより細かく調整できます。
- Shift を押しながらマウスのスクロールホイールを使って、FX ラックを上下にスクロールします。

Zen Q Synergy Core には 37 種類の Synergy Core FX が付属しています。追加のエフェクトは [online software store](#) にてご購入いただけます。Antelope Audio Synergy Core FX ライブラリのユーザーマニュアルはこちらです: [here](#).

## ミキサー



このセクションには「Monitor/HP1」、「Headphone 2」、「Line Out」という3つの16チャンネルバーチャルミキサーの各チャンネルのパンコントロール、ボリュームフェーダー、ソロ/ミュート/リンクボタンがあります。デフォルトでは 8 チャンネルが表示されています。ファンクションストリップ 3 の「Mixer」スイッチをクリックすると、8 チャンネルと 16 チャンネルの表示を切り替えることができます。

## アウトプットボリュームとメータリング

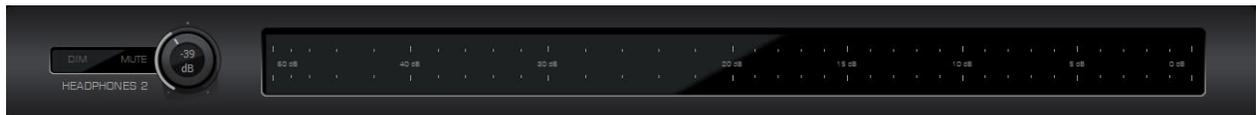


このセクションの内容は以下の通りです：



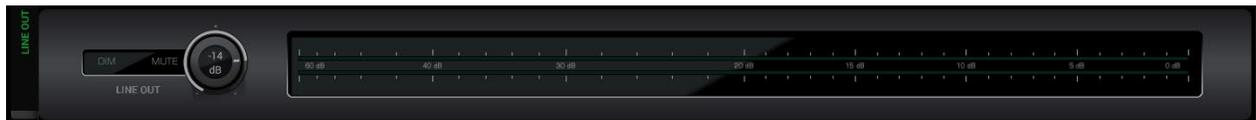
- Zen Q Synergy Core のモニター出力用の Dim および Mute ボタン付き出力ボリュームノブ。
- Zen Q Synergy Core のヘッドホン1出力用の Dim および Mute ボタン付き出力ボリュームノブ（インターフェイスのフロントパネルに「HP1」と表示されています）。
- バーチャルミキサー「Monitor/HP1」の2チャンネルステレオ出力のピークメーター

「Headphone 2」というタイトルの2つ目のバーチャルミキサーを操作する場合、セクションは次のようになり、以下の内容が含まれます。



- Zen Q Synergy Core の Headphone 2出力（インターフェイスのフロントパネルに「HP2」と表示されている）用の Dim ボタンと Mute ボタン付き出力ボリュームノブ。
- 「Headphone 2」バーチャルミキサーの2チャンネルステレオ出力のピークメーター。

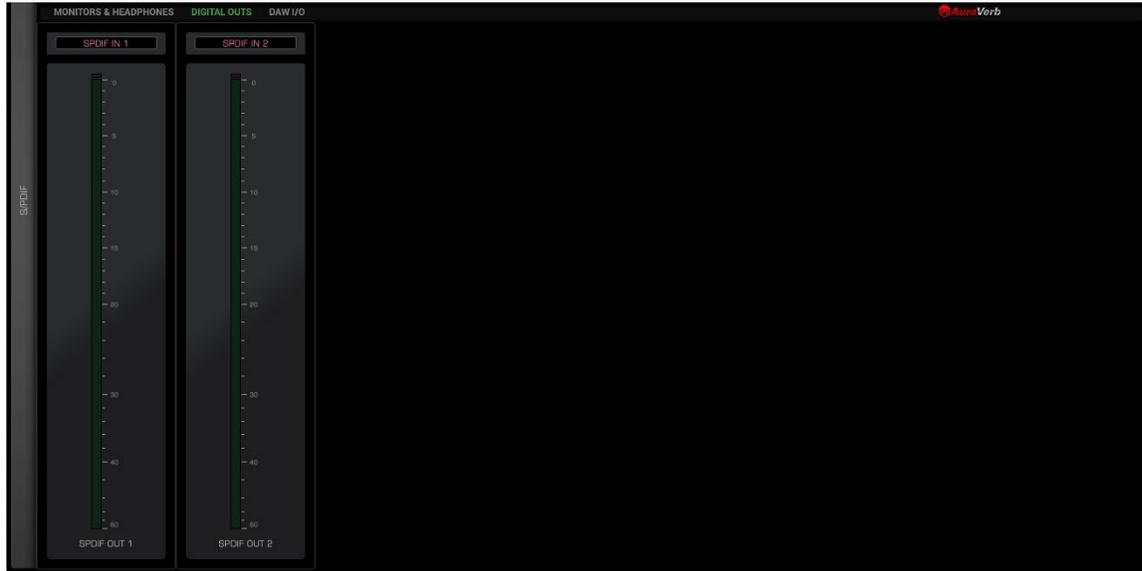
3番目のバーチャルミキサー「Line Out」を操作するとセクションは次のようになり、以下の内容が含まれます。



- インターフェイスのリアパネルにある Zen Q Synergy Core のライン出力1および2用の Dim および Mute ボタンを備えた出力ボリュームノブ。
- バーチャルミキサーの2チャンネルステレオ出力「Line Out」のピークメーター



## Digital Outs ビュー



以下の内容を含みます。

- デジタルアウトプットチャンネル「S/PDIF 1」と「S/PDIF 2」の入力セレクターです。クリックすると、Zen Q Synergy Core の S/PDIF デジタルオーディオアウトプットに送りたいオーディオインプットを選択できます。
- アウトプットシグナルの強さを視覚化するピークメーター。アウトプットのボリュームコントロールが無いのは、AES/EBU、S/PDIF、ADATなどのデジタルオーディオ伝送プロトコルには、ボリュームコントロールの機能が無いためです。そのため、デジタルアウトプットのシグナルが弱すぎたり強すぎたりする場合は、インプット側でボリュームやゲインを調整する必要があります。



## DAW I/O ビュー



「DAW I/O」ビューでは、DAW との間でやり取りされるオーディオの概要を見ることができます。この章をよく読んで、動作原理を理解し、混乱を最小限に抑えてください。

「Monitors & Headphones」ビューのバーチャルミキサーのチャンネル 1 ～ 8 に割り当てられた入力と Synergy Core FX は、DAW の入力 1 ～ 8 にルーティングされます。DAW を開いて新しいトラックを作成し、「Input 1」からオーディオをレコーディングするようにアサインすると、ミキサーのチャンネル 1 からのオーディオを得ることができます。

どのミキサーのチャンネル1なのか、という疑問が湧くかもしれません。3つのバーチャルミキサーは、オーディオインプットと Synergy Core FX チェーンを共有していることを覚えているでしょう。さらに重要なことは、私たちはインプットと Synergy Core FX を DAW に取り込むだけで、バーチャルミキサーのアウトプットは取り込みません。つまり、オーディオはバーチャルミキサーのパンやボリュームコントロールに到達する前に DAW にルーティングされるので、DAW でのレコーディングやミキシングの邪魔になることはありません。

DAW での作業中は、バーチャルミキサーのアウトプットではなく、DAW のマスターバスアウトプットをモニター機器で聞きたいと思うこともあるでしょう。DAW のマスターバスアウトプットとシステムオーディオアウトプットは、常に「COMPUTER PLAY」入力 1 と 2 にルーティングされています。

インプットセクターを使用して、「COMPUTER PLAY」インプット 1 と 2 を「Monitors & Headphones」ビューの 1 組のミキサーチャンネルにアサインし、「Monitor/HPI」ミキサーコントロールで残りのチャンネルをサイレンスにします。サイレンシングされたチャンネルのオーディオは、DAW のマスターバスからのみ聞こえ、そのバスはモニター機器にルーティングされます。



残りの「COMPUTER PLAY」インプットは、DAWの出力3～8からオーディオを受信します。つまり、DAWのオーディオトラックをインターフェイスのアナログおよびデジタルアウトプットのいずれか、あるいは Synergy Core の FX 処理に送りたい場合は、このトラックをアウトプット 3～8 に割り当て、コントロールパネルアプリケーションに切り替えて、一致する番号の「COMPUTER PLAY」入力を好きな場所に割り当ててください。

なお、「Monitors & Headphones」ビューのインプットセクターと AFX エリアは、「DAW I/O」ビューにも反映されています。このようにして、各チャンネルからどのオーディオインプットをレコーディングしているか、Synergy Core FX が適用されているか（もしあれば）を明確に確認し、ビューを切り替えることなく変更することができます。

**ループバック機能** – 「DAW I/O」ビューの入力セクターにはまた、2つの選択肢が追加されています。

「LOOPBACK HP1/MON」1-2と「LOOPBACK HP2」1-2です。これらの選択により、「Monitors & Headphones」ビューにある3つのバーチャルミキサーのうち、2つのバーチャルミキサーからの2チャンネルステレオアウトプットを DAW やストリーミングアプリケーションに戻すことができます。この機能は、レコーディングやブロードキャストのためのレディミックスを必要とする多くのシナリオで役立ちます。インターフェイスのインプットやコンピュータの再生など、あらゆるシグナルに対してレベルの設定やエフェクトの使用を行い、それらをすべてステレオにまとめることができます。ストリーミング、VoIP/ビデオ通話、リアルタイムエフェクトプリント、複数のソフトウェアアプリケーションにまたがるライブミュージックパフォーマンスなど、ループバック機能を活用できるシナリオは数多くあります。

ご不明な点がございましたら、ご遠慮なくチャットやチケットシステムを使用して [Customer Support](#) までお問い合わせください。また、[Antelope Audio on YouTube](#) ビデオチュートリアルをご覧になったり、[Antelope Audio Users Facebook](#) グループに参加してアドバイスを求めたりすることもできます。[Knowledge Base](#) も素晴らしい情報源となります。



## AuraVerb

AuraVerb は特別な新しいアプローチと独自のアルゴリズムを用いて、豊かさとカラーを提供します。このリバーブは「Color」パラメータを含む8つの異なるコントロールを備えており、暗くなったテクスチャーから明るくシズル感のある存在感までを作り出すことができます。さらに、受賞歴のあるオーディオエンジニア兼プロデューサーの Brian Vibberts 氏が手がけた24種類のプリセットが用意されています。



AuraVerb はライブパフォーマンスやモニタリングのために設計された Send エフェクトです。ミキサーチャンネルの「Send」ノブを回すと（上の写真）リバーブが適用された音が聞こえます。

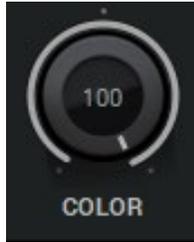


「Returns」エリアのフェーダーをドラッグすると、モニターやヘッドフォン出力から AuraVerb を聞くことができます。



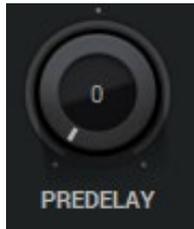
## パラメーター

AuraVerb では以下のパラメータが使用できます。



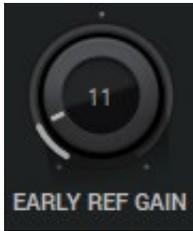
### Color

Color コントロールはリバーブの全体的なトーンを調整することができます。0では青々とした絨毯を敷き詰めたような暗い空間になります。100 ではリバーブが最も明るくなり、リードボーカルなどに「シズル感」を加えることができます。



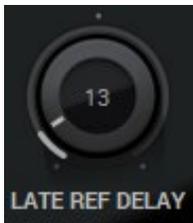
### PreDelay

ほとんどのリバーブに共通するプリディレイは、音源とリバーブの始まりの間に少しのスペースを作ることができます。これは、リバーブからの最初の音に先行するディレイタイムの量をコントロールすることで実現します。このパラメータは、リバーブ処理された信号を処理されていない信号に対して時間的に遅らせるために使用します。環境の大きさに応じた自然な設定で、0～32ミリ秒の範囲で設定できます。曲のテンポやドラマチックなタイミングに合わせてこのパラメータを微調整することで、ミックス内でのリバーブの感じを整えることができます。



### Early Reflection Gain

これはすべての初期反射音に対するリニアゲイン値です。これらの反射音が低いレベルに設定されている時、知覚的に直接音と一緒にグループ化され、増加するとトラックをうまく厚くすることができます。



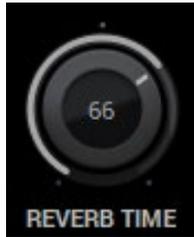
### Late Reflection Delay

とりわけ AuraVerb では、仮想空間の側壁と天井からの反射エネルギーを計算が可能となります。Late Reflection Delay はこれらの反射のバーストの遅延をコントロールし、エコーを発生させたり、シミュレートされた音響空間の空間的印象をサポートします。



### Richness

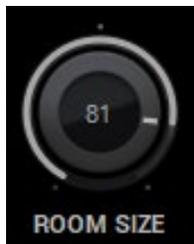
Richness はリバーブのエンベロップメントとダンピングのニュアンスの複雑さをコントロールします。0では減衰が少なく、明るいディケイになります。この音は軽やかで空気感のある音ですが、Richness を上げることで音に広がりを持たせたり、低音域のリバーブ時間をスムーズに長くすることができます。



## Reverb Time

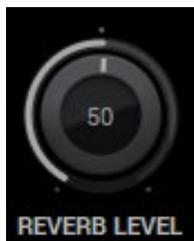
Reverb Time は減衰の長さを調整し、Room Size は仮想空間の寸法を大きくします。また、高域成分が多いソースでは Richness と Color によっても減衰時間が変化します。一般的に空間の大きさが大きくなると、Reverb Time も大きくなります。

残響時間を 50% に設定すると、どのような大きさの部屋でも自然なサウンドのテールが得られます。Room Size パラメータに対して Reverb Time を異常に高くしたり低くしたりすることで、大空間や絶妙なアンビエンスリバーブを作り出すことができます。



## Room Size

Room Size は仮想空間の寸法を大きくする。



## Reverb Level



リバーブのアウトプットレベルコントロールです。AuraVerb のインプットはミキサー 1 のチャンネルの Send ノブに割り当てられているので、Send コントロールからチャンネルのボリュームレベルのバランスを取り、Reverb Level でマスターバスのリバーブ量を調整することをお勧めします。



### REVERB FX ON/OFF スイッチ

AuraVerb の有効化、無効化に使用します。



### Preset Manager

Preset Manager ではプリセットの保存と読み込みができます。ドロップダウンメニューでプリセットを選択します。「S」ボタンをクリックしてプリセットを保存します。「L」ボタンをクリックして、プリセットをロードします。



## EDGE & VERGE MIC エミュレーション



Zen Q Synergy Core にはリアルタイムのマイクエミュレーションが内蔵されています。マイクエミュレーションをオンにした状態でモニターやレコーディングが可能です。また、「ドライ」オーディオとマイクエミュレーションオーディオを別々のトラックにレコーディングすることも可能で、制作の自由度を高めることができます。

Edge & Verge のマイクエミュレーションは、Antelope Audio の Edge & Verge モデリングマイクロフォンのみでの使用を想定しています。モデリングされているかどうかに関わらず、他のマイクでの最適な（あるいは使用可能な）結果を保証するものではありません。

Edge Quadro マイクは Zen Q Synergy Core と互換性がありません。なぜなら Zen Q Synergy Core は 4 つのマイク入力が必要とするからです。このインターフェースは 2 つです。したがって、それに対する説明はこのマニュアルから除外されています。

### Getting Started

ヘッドフォンをフロントパネルのインプット HP1 に接続します。Antelope Audio の Edge または Verge モデリングマイクをリアパネルのインプット A1 または A2 に接続します。この例では入力 A1 に接続した Edge Solo を使用しています。

1. Control Panel を開き、PREAMPS の列から一番左のプリアンプに向かいます。「AFX」エリアの上にある入力セレクターをクリックし、メニューから「PREAMPS」>「PREAMP 1」を選択します。
2. シグナルタイプのドロップダウンメニューから「Mic」を選択し、48V ファンタム電源を有効にします。



マイクエミュレーションボタンをクリックして、マイクエミュレーションウィンドウを開きます。

ダイヤルで「Edge Solo」を選択し、ドロップダウンメニューからマイクのエミュレーションを選びます。

4. ゲインノブでマイクのゲインを調整します。この時点で、ヘッドフォンからマイクの音声が聞こえてくるはずで  
す。

## マイクエミュレーションを使用する

「Mic Emulations」ウィンドウでダイヤルをクリックして回転させると、モデリングマイクに使用できるエミュ  
レーションにアクセスできます。



以下は Antelope Audio の各モデリングマイクのマイクエミュレーションを使用するためのガイドで  
す。



## Edge Solo



### Edge Solo マイクエミュレーションウィンドウ

以下のような機能があります:

- 右側のドロップダウンメニューからマイクエミュレーションを選択します。
- 「Phase Invert」ダイヤルをクリックして回すと、シグナルの極性を反転させることができます。
- 「48 V」スイッチをクリック&ドラッグすると、ファンタム電源のオン/オフを切り替えることができます。

### Edge Solo のレコーディングとモニタリング

Edge Solo はシングルメンブレンコンデンサーマイクロフォンです。つまり、このマイクは物理的なマイクプリアンプの入力と、仮想的な「MIC EMU」の出力を1つずつ占めることになります。



Edge Solo のマイクエミュレーションは、1つのインプットオーディオチャンネルで動作します。「ドライ」と「マイクエミュレーション」の両方のオーディオをレコーディングしてモニターするには、2つのモノラルトラックを扱うことになります。

- Edge Soloの「PREAMP」インプットを任意の出力に接続し、「ドライ」オーディオをモニターします。
- Edge Solo の「EMU MIC」アウトプット（「PREAMP」入力と同じ番号）を任意のアナログおよびデジタルアウトプットにルーティングして、「マイクエミュレーション」オーディオをモニター／レコーディングする。
- 「PREAMP」チャンネルと「EMU MIC」チャンネルをそれぞれ別の出力にルーティングし、そこからレコーディングやモニターを行うことで、「ドライ」と「マイクエミュレーション」の両方のオーディオを得ることができます。

Edge Solo のより詳細についてはこちらを御覧ください：[product page](#).

## Edge Duo

従来の「Edge」モデリングマイクをお持ちの方へ：「Edge」と「Edge Duo」のハードウェアはほぼ同じなので、「Edge Duo」エミュレーションをお持ちの「Edge」マイクに自由にお使いください。

### Edge Duo マイクエミュレーションウィンドウ



以下のような機能があります：

- 真ん中のドロップダウンメニューからマイクのエミュレーションを選びます。
- 「Phase Invert」ダイヤルをクリックして回すと、シグナルの極性が反転します。



- 「48V」スイッチをクリック&ドラッグして、ファンタム電源を有効または無効にすることができます。
- 「Channel Swap」ダイヤルをクリックして回すと、「Edge Duo」のインプットを入れ替えることができます。
- 「Pattern」ノブをクリックして回し、ポーラーパターンを調整します。マイクのモデルによっては、ポーラーパターンの調整が固定されていたり、制限されているものもありますのでご注意ください。

## Edge Duo のレコーディングとモニタリング

Edge Duo はデュアルメンブレンコンデンサーマイクです。デュアルメンブレンの1つのカプセルを持ち、Y-XLR ケーブル（付属）で接続し、各メンブレンに1つの XLR コネクターを備えています。左（白）のコネクターはフロントメンブレン用、右（赤）はリアメンブレン用です。

このマイクは2つの物理的なマイクプリアンプインプットと、2つの「EMU MIC」バーチャルアウトプットを占有します。

**注：**XLR コネクターの片方を外すことで Edge Duo をシングルメンブレンコンデンサーマイクとして使用することができます。この場合、マイクのエミュレーションは表示されますが正しく機能しません。インプットを入れ替わり、極性パターンを調整することはできません。

### Edge Duo をシングルメンブレンコンデンサーマイクとしてレコーディング、モニターする

Edge Duo の「PREAMP」入力を任意のアウトプットにルーティングして「ドライ」オーディオをモニターし、DAW の入力 1~8 からレコーディングします（例：ミキサーのチャンネル1を使用しているため、インプット1からレコーディングします）。

### Edge Duo をデュアルメンブレンコンデンサーマイクとしてレコーディング、モニターする

この場合、各メンブレンからの2つのモノラルインプットを同時にレコーディング、モニターします。メンブレンと演奏者の間の物理的な距離のために、音色や音量が若干異なります。各メンブレンのゲインを個別に調整して補正する必要があるかもしれません。

Edge Duo が占有する「PREAMP」インプットを任意のアウトプットにルーティングして「ドライ」オーディオをモニターし、DAW の入力 1~8 からレコーディングします（例：ミキサーのチャンネル1を使用しているため、インプット1からレコーディングします）。



## モデリングマイクとしての Edge Duo のレコーディングとモニター

「Edge Duo」のマイクエミュレーションが有効になっていることを確認します。Edge Duo が使用している「PREAMP」インプットに対応する「EMU MIC」インプットをモニターしたいアウトプットにルーティングし、DAW の入力 1~8 からレコーディングします（例：ミキサーのチャンネル1を使用している場合は、インプット1からレコーディングします）。

## ドライオーディオとマイクエミュレーションオーディオの同時レコーディングとモニタリング

Edge Duo では「ドライ」と「マイクエミュレーション」のオーディオを同時にモニター、レコーディングすることで2つの「ドライ」トラックと2つの「マイクエミュレーション」トラックの4つのモノラルシグナルを同時に扱うことができます。「ドライ」オーディオは「PREAMP」インプットから、「マイクエミュレーション」オーディオは「EMU MIC」アウトプットから出力されます。これらを好きな場所にルーティングして、DAW の入力 1~8 からレコーディングします（例えば、ミキサーのチャンネル1を使用しているので、インプット1からレコーディングします）。

Edge Duo のより詳細な情報についてはこちら：[product page](#).

## Verge

Verge は Edge Solo と同様にシンプルな操作性を持つ小口径コンデンサーマイクです。そのサイズと高い音圧レベルへの対応力は、狭い場所でのポジショニングや、ドラムキットのような非常に大きな音のソースのレコーディングに適しています。





## Verge Mic Emulations Window

以下のような機能があります：

- 右側のドロップダウンメニューからマイクエミュレーションを選択します。
- 「Phase Invert」ダイヤルをクリックして回すと、シグナルの極性を反転させることができます。
- 「48 V」スイッチをクリック&ドラッグすると、ファンタム電源のオン/オフを切り替えることができます。

## Verge のレコーディングとモニタリング

Verge はシングルメンブレン、スモールダイアフラムのコンデンサーマイクです。これはマイクが1つの物理的なマイクプリアンプ入力と1つの「EMU MIC」バーチャルアウトプットを占有することを意味します。

Verge のマイクエミュレーションは、1つのインプットオーディオチャンネルで動作します。「ドライ」と「マイクエミュレーション」の両方のオーディオをレコーディング、モニターすることは、同時に2つのモノラルトラックを扱うことになります。

- Verge の「PREAMP」インプットを「ドライ」オーディオをモニターするための任意のアウトプットにルーティングします。
- Verge の「EMU MIC」アウトプット（「PREAMP」入力と同じ番号）を任意のアウトプットにルーティングして、「マイクエミュレーション」オーディオをモニターする。
- 「PREAMP」と「EMU MIC」ブロックを任意のアウトプットにルーティングして、「ドライ」と「マイクエミュレーション」の両方のオーディオをモニターしてレコーディングする。
- DAW で入力 1~8 をレコーディング。

Verge のより詳細な情報についてはこちら：[product page](#).



## カスタマーサポート情報

Antelope Audio のカスタマーサポートは、以下の方法で受け付けています。

### オンライン

support.antelopeaudio.com よりお問い合わせください。

### 電話

月曜から金曜までの21時間/日、24時間体制でサポートいたします。

North America +1-916-238-1643 01:00 a.m. – 10:00 p.m. (EST)

International +44 19 2593 3423 06:00 a.m. – 03:00 a.m. (GMT)

Pour le Support francophone: +44 20 3389 8108 09:00 a.m. – 17:30 p.m. (GMT+1)

### ライブチャット

ライブチャットは月曜日から金曜日までの以下の時間帯にご利用いただけます。

06:00 a.m. - 06:00 p.m. (GMT)

注：営業時間外にお問い合わせいただいた場合は、カスタマーサポートシステムにチケットを提出していただくか、ボイスメッセージを残していただくことをお勧めします。

## その他サポート情報

- [Antelope Audio YouTube channel](#) では、様々なチュートリアルビデオやエンドーサーのコンテンツを紹介していますので、ぜひご覧ください。



- **Antelope Audio Users Facebook group** Facebookグループでは、ユーザー同士や社員と交流することができます。ただし、このグループはサポートグループではありません。そのようなお問い合わせはカスタマーサポートチームにご連絡ください。
- カスタマーサポートセクションの **Knowledge Base** は、トラブルシューティング情報、よくある質問への回答、アンテロープのノウハウなど、見落とされがちな情報源です。



# Antelope 製品が動作しない

## WHAT SHOULD I DO?

ご自身で解決できない場合は当社にご連絡いただき、ハードウェア関連の問題かどうかを確認させていただきます。ハードウェア関連の問題であれば修理の手順をご案内いたします。返品の場合は RMA ナンバーを発行いたしますので、手続きを開始してください。

### RMA ナンバーとは?

工場でのサービスや修理には RMA (Return Merchandise Authorization) ナンバーの発行が必要です。RMA 番号の発行を受けずに機器を送付すると、機器は返却され、サービスを受けることができません。

### RMA ナンバーを入手するには?

RMA ナンバーの発行は、Antelope Audio のカスタマーサポートチームが担当しています。  
[support.antelopeaudio.com](https://support.antelopeaudio.com) にアクセスしてご連絡ください。

RMA が発行された後、手続き方法を記載したメールが届きます。

### RMA 返送情報

返品する製品と一緒に、お客様の氏名、配送先住所、弊社テクニカルサポートチームが発行した RMA 番号、技術的な問題についての簡単な情報を記載した手紙を同封してください。

できればオリジナルの箱を使用してください。使い古した箱では、Antelope Audio 本社に届くまでの間、製品を十分に保護することができません。本体と箱の壁の間には、衝撃や振動、様々な破れや傷を防ぐために複数の層で追加のクッション材を使用しています。



輸送中に元の出荷ラベルが読めなくなった場合に備えて、ラベルや古い出荷マークを取り除き、必ず箱の中にお届け先を入れてください。

配送料は製品の所有者が負担します。Antelope Audio は現地での通関手数料を負担しません。

ご希望の宅配便サービス（DHL、UPS、FedExなど）をご利用になることをお勧めします。荷物には実際の価値に見合った保険をかけ、Fragile（壊れやすい）と表示し、追跡番号を付ける必要があります。標準的なメール便の使用はお勧めしません。

すべての発送書類に Antelope Audio のテクニカルサポートが発行した RMA 番号を記載することを忘れないでください。

Antelope Audio は Antelope Audio 本社に届く途中で紛失したり、破損したりした未配達の商品については責任を負いません。損害賠償請求については、ご利用の配送業者にお問い合わせください。

Antelope Audio は梱包不良による製品損傷の修理費用を負担しません。



## LIMITED WARRANTY POLICY

これは Antelope Audio ブランドのハードウェア製品（以下、「製品」）を Antelope Audio の正規販売店から購入したエンドユーザーに提供される、譲渡不可能な任意の限定製品保証です。

購入国または異なる場合は居住国の消費者保護法または規制の対象となるお客様にとって、Antelope Audio の限定保証によって与えられる利益は、そのような消費者保護法、規制によって招集される権利および救済手段に追加されるものであり、代わりになるものではなく、消費者法から生じる購入者の権利を除外、制限、または停止するものではありません。消費者は Antelope Audio 限定保証に基づくサービスを請求するか、消費者法上の権利に基づくサービスを請求するかを選択する権利があります。

Antelope Audio 限定保証に基づいて行われる全てのクレームは、この保証書に記載されている条件に準拠します。

### 保証範囲

Antelope Audio はエンドユーザーが Antelope Audio の正規販売店から本製品を購入した日から1年間、本製品に素材および製造上の欠陥がないことを保証します。

適用される地域の法律で明確に禁止されている場合を除き、この保証は最初の購入者に限定され、譲渡することはできません。この保証はお客様に特定の法的権利を提供し、お客様は地域の法律によって異なる追加の権利を有する場合があります。

一般的にこの保証は、Antelope Audio のハードウェア製品が保証期間中、公表された技術仕様に基づき、データシートで指定されたとおりに、意図された動作環境で動作することを意味します。



このバージョンの保証は2018年1月1日以降に購入された製品に適用されます。それ以前のバージョンの Antelope Audio 限定保証については、カスタマーサービスにお問い合わせください。

## 限定的な工場出荷時の再生品（Bストック）保証

Antelope Audio は「B-ストック、工場再生品、またはオープンボックス」として販売された製品について、材料の欠陥（製品の説明に別段の記載がある場合を除く）および製造上の欠陥がないことを保証します。正規販売店または Antelope Audio から直接購入された製品のみがこの保証の対象となります。

工場出荷時の再生品（Bストック）の限定保証は、地域の規制で別段の定めがない限り、製品の購入日から6ヶ月間有効です。

ここに記載されているすべての保証条件は、特に明記されていない限り、B-ストック保証にも適用されます。

## 救済措置

Antelope Audio 製品がその公表された技術仕様に沿って動作していない場合の Antelope Audio の全責任とお客様の唯一の救済方法は、Antelope Audio の裁量に委ねられます。

- 1) Antelope Audio の費用負担で、正常に動作する新品または新品同様の再生部品を用いて製品を修理すること。
- 2) Antelope Audio の費用負担で、製品を新品または新品同様の再生部品を使用した同等の機能を持つ製品と交換すること。
- 3) 支払った金額を返金する。Antelope Audio が支払済みの代金を返金することを決定した場合、Antelope Audio は支払済みの製品の代金から製品に生じた損害を差し引くことができます。保証期間満了後14日以内に (i) Antelope Audio が不適合の書面による通知を受け取り、(ii) Antelope Audio の書面による承認後、顧客が不適合製品を指定の場所に返却し、(iii) Antelope Audio が製品は不適合であり、その不適合が以下に指定される除外事項の結果ではないと判断した場合。



これらの保証義務はハードウェアを購入した当初の場所、または Antelope Audio が指示した別の場所に、販売時のレシートを添付して返却することを条件とします。製品を返送する際の送料および手数料はお客様が負担する必要があります。製品の返品に関しては、その他の適用される関税、関税、税金、その他の手数料を支払う必要がある場合があります。

修理または交換された製品は、当初の保証期間の残りの期間保証されます。

## 生産終了した製品

旧式または製造中止になった製品は、修理可能であれば同じ製品と交換します。Antelope Audio がお客様の旧式または製造中止の製品を同じ製品と交換できない場合は、Antelope Audio は独自の判断で旧式または製造中止の製品を同様の機能と容量を持つ製品と交換します。

## 除外事項

本保証は、次のいずれかに起因する問題や損害を補償するものではありません。

(i) 通常の使用に伴う損耗、(ii) 改造、誤用、誤使用、不注意、天災、事故。

(ii) 改造、乱用、事故、分解、誤用、誤使用、過失、天災、事故。

(iii) Antelope Audio または Antelope Audio が保証作業を許可した者以外による不正な修理または修理の試み、不正な修理はこの保証を無効にします。



この保証は誤用、不注意、事故、改造が行われた製品、あるいは通常のテスト条件でテストできないようなはんだ付けや改造が行われた製品には適用されません。

(i) 偽造品、すなわち、Antelope Audio またはその認定製造パートナーによって製造されていないと Antelope Audio が独自の裁量で判断した製品、(ii) Antelope Audio の認定ディーラーまたは再販業者ではない個人または団体から購入した製品、(iii) 現地の法律で認められている範囲内で、「現状のまま」または「すべての欠陥を含む」状態で販売された製品は対象外です。

この保証は、製造者のラベル、シリアル番号、日付スタンプ、保証ステッカーが製品から変更または除去された場合には無効となります。

## 責任の制限

Antelope Audio は損害の可能性について事前に知らされていたとしても、利益、収益、データの損失（直接的、間接的を問わない）、またはお客様の製品に対する明示的または黙示的な保証の不履行による商業的損失を含む、特別、偶発的、間接的、または結果的な損害について責任を負いません。地域の法律によっては、特別な間接的、偶発的、または結果的な損害の除外または制限を認めていない場合がありますので、この制限または除外はお客様の管轄区域では適用されません。Antelope Audio はその製品に関連したその他の責任を負うことはなく、また他者に負わせることもありません。

## データ復元

Antelope Audio のストレージデバイスを使用してデータが失われた場合、Antelope Audio は失われた可能性のあるデータのバックアップやリカバリーの責任を負いません。



## その他の保証について

Antelope Audio の従業員、販売店、再販業者、またはその他の代理人は、この保証の修正、延長、または追加を行う権限はありません。

## 保証請求の方法

有効な保証請求は購入した店舗で手続きを行ってください。また、製品を購入された小売店に直接返品規定をご確認ください。購入先で処理できない保証請求は、Antelope Audio に直接ご連絡ください。当社のカスタマーサービスの連絡先は、Webサイトまたは製品に同梱されているマニュアルに記載されています。

## 製品の返品について

Antelope Audio 製品を修理または交換のために返品する必要がある場合には、Antelope Audio は返品承認番号 (RMA#) と返品方法を提供します。Antelope Audio の事前の承認なしに製品を返品しないでください。有効な RMA# を持たずに返品された製品は拒否され、差出人の負担で差出人に返送されます。受領時のトラブルを避けるため、RMA# をパッケージの外側にはっきりと記入し、RMA 確認メールのコピーをパッケージ内に入れてください。

保証期間中の製品については、お客様の国に在庫がある場合に限り、当社の判断により一時的な代替品を提供する場合があります。一時的な交換ユニットを要求するには、Antelope Audio が欠陥品を受け取る前に、新しい交換ユニットの発送を確保するため、有効なクレジットカードを提供する必要があります。

## 返品承認番号 (RMA#) のリクエスト

以下の手順で RMA ナンバーを取得してください。



(I) エンドユーザーのお客様は、support.antelopeaudio.com からオンラインでクレームを提出してください。企業間取引(B2B)/Antelope Audio の直接取引のお客様は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

[techsupport@antelopeaudio.com](mailto:techsupport@antelopeaudio.com)

(ii) RMA 処理には有効な購入証明書が必要です（レシート、請求書など）。Antelope Audio はクレーム提出日から2営業日以内に RMA 番号をお知らせします。

## RMA 返送先住所

当社は世界各地に複数の RMA 受取拠点を持っています。RMA 確認書には、お客様が RMA パッケージを送付する際に使用しなければならない特定の返送先住所が明記されています。承認されていない場所で受け取ったパッケージは、受け取りを拒否され、送信者の費用負担で送信者に返送されることがあります。

## 輸送中に紛失または破損した製品

返品のための梱包には オリジナルの梱包材を使用してください。オリジナルの梱包材が入手できない場合は、製品を同等以上に保護するような素材を使用してください。外見上の損傷があったり、梱包が不十分な状態で到着した荷物はすべて受け取りを拒否され、差出人の費用負担で差出人に返送されます。当社は RMA 受領場所への配送中に発生した損害や、製品の紛失・盗難については責任を負いません。

## 会社情報

**Antelope Audio** はブルガリア共和国の法律に基づいて登録されたElektrosfera Ltd. (UIN: 131052590) が事業を行う際の商号であり、世界的に知られています。この文書の中で **Antelope Audio** という商号が使用されている場合は、Elektrosfera Ltd.を指すものとします。運営住所：Tsarigradsko Shose Blvd., 7 km, Building of BIC IZOT, floor 6, Mladost region, Sofia, Bulgaria.



本契約のいずれかの条項が違法または執行不能であると判断された場合、その条項は本保証から分離されるものとし、残りの条項の合法性または執行可能性は影響を受けないものとします。



## 安全にお使いいただくために

感電や火災などの危険性を低減するためには：

- ねじ、カバー、キャビネットを取り外さないでください。内部にはユーザーが修理可能な部品はありませんので、修理は専門のサービス担当者にご依頼ください。
- 本機を雨や湿気の多い場所に置いたり、液体をこぼしたりしないでください。
- 本機に液体や異物が入った場合は、使用しないでください。本機の電源を切り、電源プラグを抜いてください。異物を取り除かれるか、液体が完全に乾いてその残留物が完全に取り除かれるまで、デバイスを再度操作しないでください。不明な点があれば、メーカーにご相談ください。
- 濡れた手で電源ケーブルを扱わないでください。
- キャビネットの上に物を置いたり、狭くて風通しの悪い場所で本機を使用したりすると、本機の動作や近くにある他の部品の動作に影響を与える可能性があります。
- 異常が発生した場合は、まず機器の電源を切り、次に電源プラグを抜いてください。本機を自分で修理しようとししないでください。正規のサービス担当者または販売店に相談してください。
- 暖房器具やストーブなど、熱を発生する機器（アンプを含む）の近くに設置しないでください。
- 暖房器具やストーブなど、熱を発生する機器（アンプを含む）の近くに設置しないでください。
- 本機の清掃には刺激の強い化学薬品を使用しないでください。電子機器専用のクリーナーで清掃してください。
- 本機の電源を入れる前に、すべての機器を接続してください。
- アースを取らずに本機を運転することは絶対に避けてください。
- 電源ケーブルは、歩いたり、物を置いたりして圧迫されないように配線してください。
- 高い音圧レベルに時々、あるいは継続的にさらされると、ヘッドホンやモニターを介して耳に永久的な損傷を与える可能性があります。
- このデバイスは、0~50°C (32~122°F) の適正動作温度を持つ温和な環境で動作するように設計されています。



## 技術詳細

### アナログ入力

2×マイク/ライン入力/Hi-Z入力

2 × ライン入力 / Hi-Z入力

各入力に48Vファンタム電源と独立したプリアンプゲインを装備

### アナログ出力

1 × モニター出力 (TRS 1/4ジャック)、最大+20 dBu、信号バランス、DC-coupled  
1 × ライン出力 (TRS 1/4ジャック)、最大+20 dBu、信号バランス、DC-coupled

2×ステレオヘッドフォン出力

### マイクプリアンプ

EIN: -128 dBu (A-weighted)

ダイナミックレンジ: -121 dB (A特性)

THD: -106 dB

最大入力レベル 最大入力レベル: +20 dBu

最大ゲイン: 65 dB

### モニター

最大出力レベル +20 dBu

### D/Aモニターコンバーター



ダイナミックレンジ：127dB（A特性）

THD + N: -115 dB

### D/Aラインアウトコンバーター

ダイナミックレンジ：127dB（A特性）

THD + N: -115 dB

### A/Dコンバーター

ダイナミックレンジ：122dB

THD + N: -116 dB

### デジタル入力

1 × S/PDIF

1 × ADAT IN (最大8チャンネル/44.1/48.0kHz)

### デジタル出力

1 × S/PDIF

### コンピューターI/O

1 × Thunderbolt 3

### クロッキングシステム



第4世代 Acoustically Focused Clocking (AFC™)

64-bit DDS

サンプルレート (kHz)

44.1, 48, 88.2, 96, 176.4, 192

寸法：

198 x 137 x 57.5 mm

重量: 約 800 g